

古事記傳

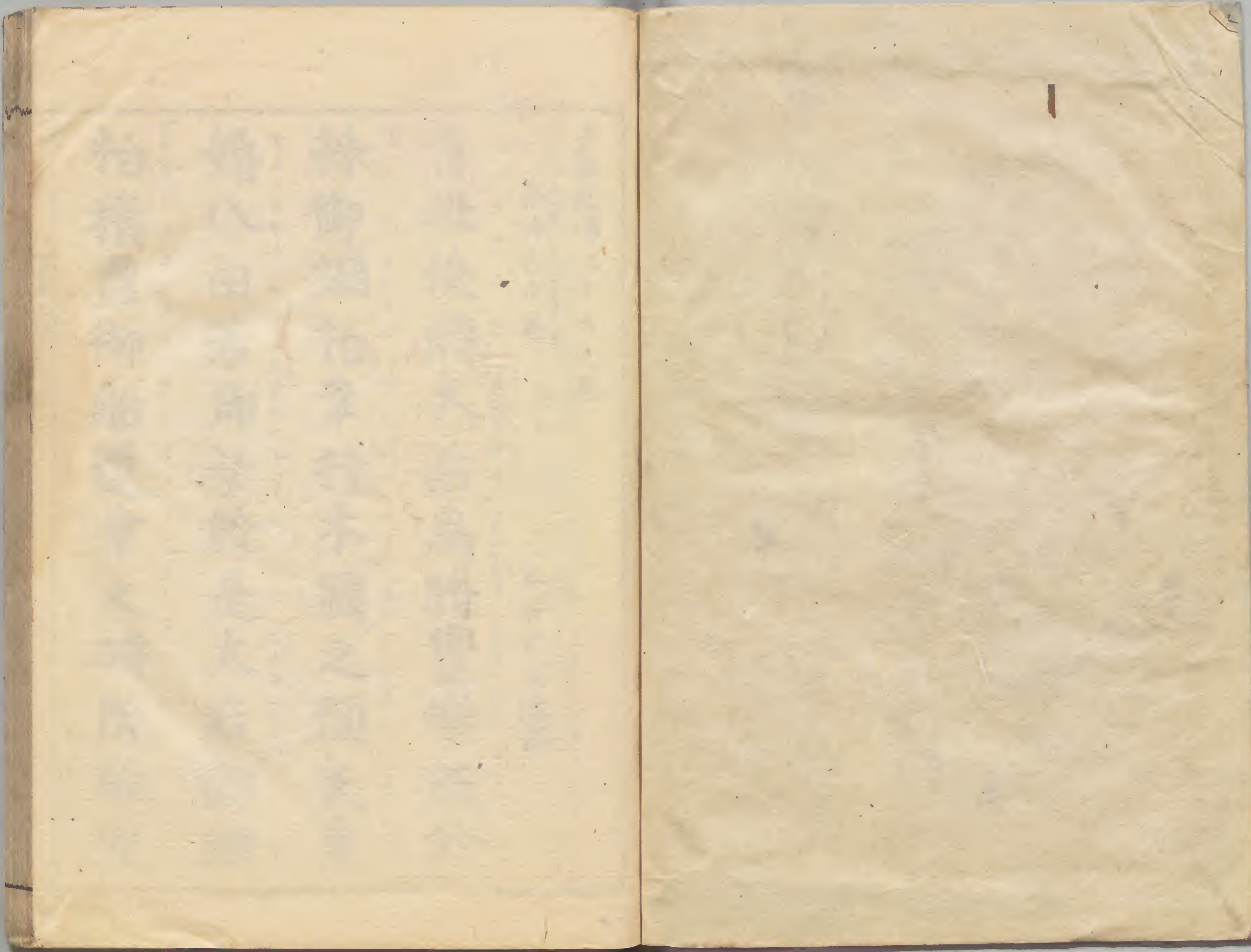
三十六

庫文官政太			
四	八	和	
九	五	書	
冊	〇	門	
架	〇	類	
函	三		
號	一		

庫文閣内			
三	八	和	
七	五	書	
函	〇	類	
二	〇		
架	九		
冊	冊		

内閣文庫		
番號	和	8500
冊數	49 (4i)	
函號	137	2





古事記傳三十六之卷

タカツノミヤノナカツニキ
高津宮中卷

本居宣長謹撰

明治九年購求

自此後時コレヨリノチ大后オホギサキ為將豐樂而於トヨノアカリシタマハムトシテニツナ

採御細柏幸行木國之間天皇ガシハラトリニキクノクニイデセラルアヒダニスメラミコト

婚八田若郎女ヤタノワキイラツメニミアヒマシツコハニオホギサキハミツナ於是大后御細カシハラニフネニツミミテハカヘリマストキニモヒトリノ

柏積盈御船還幸之時所駈使カシハラニフネニツミミテハカヘリマストキニモヒトリノ

ツカサニツカハユルキビノクニノコシマノヨホロ
於水取司吉備國兒嶋之仕丁。
コレオノガクニマカルニナニハノオホワタリニオクレタル
是退己國於難波之大渡遇所。
クラビトメノフネアヘリスナハチカタリケラクハスメラミコトハ
後倉人女之船乃語云天皇者。
コノコロヤタノワキイラツメニミアヒマシテヨルヒルタハレマストラ
皆婚八田若郎女而晝夜戲遊。
モレオホギサキハコノコトキコレメサネカモシツカニアソビイデニストツ
若大后不聞者此事乎靜遊幸。

カタリケルカレソノクラビトメコノカタレルコトヲキマテスナハチニフネ
行爾其倉人女聞此語言即追。
ニオヒシキテヨホロガイヒツルゴトアリサマツブサニマラレキ
近御船白之狀具如仕丁之言。
コ、ニオホギサキイタクウラミイカリシテソノミフネニノセタル
於是大后大恨怒載其御船之
ミツナガシハラバコトクニウミニナゲウテタマヒキカレソコ
御綱柏者悉投棄於海故號其
ヲミツノサキトハイフナリ
地謂御津前也。

自ヨリ此コ後ノ時チハハ後ノ時チニニ字ヲを能吉備ノ黒比賣ノ事此後

又カ如此ル有事モありしハ次ハある事を語らむて先

云ヒ出ル詞ナり○豊ハ豊明ハ同じ明ハ言のまく

依テ書キ中卷明宮段ニ出ル傳ハ二ノ

波牟登志豆也訓法ハ將為シ書意なり即下丈ハ將

御ツ網カ柏造酒司式大嘗祭供奉料又三津野柏

二十把日ハ長女柏四十八把日ハ十把あり二十把ハ二

同東宮料も如此あり大嘗祭式ハ酒柏

此事所ク見えしハ大神宮儀式帳六月祭條ハ云く即

大神宮司諸司官人等更發第五重参入就坐即倭儼仕

奉ル先ツ大神宮司次祢宜次大内人次齋宮主神司諸司官

人等其儼畢人別直會酒采女云く九月祭條もも

云く其直會酒波采女二人第四御門東方侍豆御角柏

盛豆人別捧給て其事ハ大神宮式も見え外宮儀式帳ハ

も同く見むし御網三津野御角みな同じハあり

古ハ凡テ都怒都能都那ハ通はし云る例あり此柏ハ

葉三岐もてはき尖りハ三角此意ノ名ナる法ハ

荒木田經雅云今大神宮祭ハ用ル三角柏ハ俗又三柏

赤芽柏を三角柏也三ツもて鋒皆尖まり外宮もも今

月九月也同ク用ル事あり又赤芽柏ハ冬ハ葉なり六

バ用ひかがし古ノ三角柏ハ非ズ也云り又伊勢ノ或

書云。按小三節祭御遊の柏酒を年中行事の女官又
柏を持志免今一人の女官榊葉の柏土に灑ぐ也見
えり今ハ榊葉の再興ありし事な少志摩國土
貢より今高き柏なれを再興ありし事な少志摩國土
穀の葉似し今ハ又用了は其後再興ありし事な少
し然れ今用了物古の合子やいかい慥なる也
土貢云云延よ少絶貢は伊勢神宮の柏なる事な少
大尋ぬ榊谷川氏云伊勢神宮の柏なる事な少
大朴の木あり大和國ありて見手柏云云是ハ赤
芽柏のこやや赤芽柏は俗にあか榊やも云木なり
新千載集恋二ノ御裳濯川云延小齋宮云延少賜
ひて御被し賜あ女房を立隠き見ら小三角柏
云云柏をおとせて此ハ何や云云云めけぬハ申し
遣しげ祭主輔親吾妹子が御裳濯川の岸小生る君

を足知れ柏を知れ四の句他書に引るものみ新千載
集ハ直して入續古今集恋四小侍従思ひ可少
きられしや續古今集恋四小侍従思ひ可少
三角柏又向事此沈む又浮ハ涙なり鴨長明が伊勢記云此國
又三角柏云物あり小侍従が哥ハ神風や三角柏又
云ふこと沈むは涙なりけり云云ありこと
みこと事あるや年ごろおがたかなく思ふこと
此度人々尋ぬ榊葉聞及ぶぬよしをのみり
りかなるこやあう此柏輔親卿集又延も榊川の岸
小生るやよみ侍るハ其こや又延も榊川の岸
ば昔やあめけ多今世も志摩國の内又延も榊川の岸
云延又延り木の上よか終り此やに生るを
がりてきりあう時印し又伏て落るるを向事
さきに落るるはりめをゆる其落やうも向事
云云かや云傳す是ハ神宮四度の御祭の時必入
物なり御前の御遊はく四の御門此腋又延も榊川
こや云おかみとを設く社のたかき此三角柏を各一
葉終く持てよれを其上小此みあをそくく云云さら

是を腰に挿して出るなり。長柏也云々。寂阿法師百首、哥の中、思ふ事々々の御鳴の長柏、長くを頼を廣き、幾どみ多々云々。かやうに聞け、未、其次かゝるを、見、又、此、日、或、人の許より贈まじ、柏のやうにして廣さ三四寸、長さ三尺、ばかり、まじ、常、此、木、草、の、葉、の、似、又、や、あり、三尺、や、の、枝、を、云、は、り、葉、の、長、さ、な、く、ハ、三寸、を、写、誤、ま、じ、る、や、袖、中、抄、に、ま、じ、る、か、御、裳、次、を、川、の、岸、に、あ、つ、ふ、人、を、を、る、給、く、此、柏、を、を、ま、れ、頭、昭、云、輔、親、集、云、奈、宮、の、九、月、祭、に、詣、賜、了、夜、み、ま、じ、を、川、に、奈、宮、也、や、あ、は、ま、じ、を、ま、じ、に、女、房、や、ま、じ、て、三、角、柏、也、云、柏、を、あ、つ、せ、て、是、ハ、何、や、ウ、云、や、以、り、水、を、詠、ま、じ、る、哥、な、少、中、納、言、俊、忠、卿、の、家、に、て、恋、十、首、の、中、に、逢、事、を、占、ふ、也、云、る、題、を、俊、頼、詠、云、神、風、や、三、角、柏、又、事、向、て、立、を、真、袖、に、包、み、て、ま、じ、る、私、云、或、人、云、伊、勢、大、神、宮、に、み、ま、じ、此、柏、取、て、占、ふ、事、あり、投、る、に、立、ハ、叶、ひ、立、ぬ、ハ、叶、ひ、ぬ、袖、に、包、み、て、悦、ぶ、ま、じ、る、云、く、三、角、也、云、る、ハ、三、葉、柏、也、云、あ、つ、拾、玉、集、云、神、宮、之、中、礼、典、之、間、為、永、例、右、長、柏、謂、之、三、角、柏、件、柏、者、志、摩、國、吉、津、嶋、塚、土、貢、嶋、内、山、中、生、木、上、也、也、云、あ、つ、大、神、宮、年、中、行、事、云、七、月、四、日、風、日、祈、宮、神、態

柏流神事其次第如去四月十四日御笠神事之勤也
則沈覆損四 豊樂小柏を用ひらる事ハ中卷明
月七月祭之

末小取大御酒柏云々
考合はるる ○幸行木國木國ハ上卷不見也此國ハ名

負木の國なり柏も殊又多あり
御躬幸行ふ御遊覽加ふるあり
行也知らるる ○婚八田若郎女此皇女明宮段又出傳三

大后の御妬を憚坐て其坐まじぬ向を待たせて御合
坐るなり書紀云々太子啓兄王曰云々乃進同母妹

八田皇女、曰雖不足納採、僅宛掖庭之教云。太子ハ宇
兄王ハ大 雀命なり。かききハ此皇女ハ早ク宇治、若郎子の此天
皇ニ進リ給テす。古親なき女子ハ同母兄を親此
心ヲぞめり。其例如くも人ハ嫁ルも同母兄
穴穂宮段の初見ゆ。はる字太后ハ憚ルも今
得御合坐さシめ。書紀云、二十二年春正月、天皇
語皇后曰、納ハ八田皇女、將為妃時、皇后不聽、爰天皇歌以
乞於皇后曰、云々。皇后答歌曰、云々。天皇又歌曰、云々。皇
后答歌曰、云々。天皇又歌曰、云々。皇后遂謂不聽、故默之
亦不答言。○積盈盈ツミミテ云々。おもしろし。所思者オモホシメスは
柏多く取、得給ひて御不足ミナカく、無く殊ハ御心ミココロ飲ヒし

て還来坐る御侍見む。①水取司此事ハ中卷
白檮原宮段宇陀水取の下傳十九のお毛云々。なや職
負令ニ主水司正一人、掌漿水、饅粥及氷室事、佑一人、令
史一人、水部四十人、使部十人、直丁十人、駟使丁二十人
水戸近喜、主水式。此司のさて若ハ元、飲シ水ヲを
母比川池。なやい、は、あ、水ヲが美豆ヅ云々。
食ハ魚ヲ。那催馬樂、飛鳥井ハ、安須加カ為赤也。止利波春
戸之可カ芥毛モ。得之美毛比モ。左糸之見ミ。久左サ毛モ。与ヨ之シ美
比毛左糸之公御。万葉亦ナ。十ト。出流水ミツ。奴流ル。久
波不出寒水之心ハ。毛討夜ヤ。亦ナ。訓シ。和名抄ナ。

漿俗云。迹於毛比。河子也。煮御水の由なる。俗又今
 於母由云物也。御赤染衛門集お。おる。汲よ。あ。此
 母比なり。湯と非。天。○所馳使。都加波由流。訓。流。被使なり。
 書紀。敏達。卷。馳使於官。不。放。還。國。孝。德。卷。各。置。已。民
 恣情。馳使。又。馳。役。を。も。ツ。が。フ。又。馳。使。を。ツ。カ。カ。於
 義あり。の。續。紀。七。詔。曰。率。土。百。姓。浮。浪。四。方。規。避。課。役。
 遂。仕。王。臣。或。望。資。人。或。求。得。度。王。臣。不。經。本。屬。私。自。馳。使
 云。馳。字。ハ。驅。也。同。心。吉。備。國。上。又。出。○。鬼。嶋。上。卷。又
 出。傳。五。嶋。下。なる。之。字。真。福。寺。本。又。一。本。な。新。り。の。郡。也。作
 了。然。也。也。記。中。小。郡。也。云。了。例。あ。く。然。ハ。云。法。も。き。と。案

あ。小。を。今。ハ。舊。印。本。延。佳。本。又。一。本。以。依。執。了。○。仕。丁。ハ。
 與。本。呂。訓。法。假。字。和。名。抄。近。江。國。淺。井。郡。郷。名。丁。
 依。保。呂。字。鏡。又。解。野。保。乃。又。固。書。又。臈。曲。脚。中。也。和。名。
 過。給。了。少。宇。治。拾。遺。物。語。乃。須。知。脚。之。後。大。筋。な。り。あ。る。
 此。ハ。出。り。か。び。み。り。其。筋。應。与。本。呂。須。遲。也。云。こ。れ。統。丁。
 一。ヨ。ホ。ロ。又。心。カ。ヒ。百。ホ。口。な。也。訓。て。下。ハ。書。紀。以。こ。れ。統。丁。
 延。を。加。免。し。言。な。り。本。呂。也。訓。法。さ。り。都。加。用。都。加。波。
 本。呂。末。終。凡。て。丁。也。云。ハ。民。の。役。使。は。多。く。者。を。云。名。な
 了。中。昔。の。書。也。た。夫。也。云。今。世。又。人。足。少。云。之。の。なり。
 了。戸。令。又。凡。男。女。三。歳。以。下。為。黃。十。六。以。下。為。小。北。以。下。
 為。中。其。男。廿。一。為。丁。六。十。一。為。老。六。十。六。為。耆。老。凡。老
 殘。並。為。淡。丁。也。見。免。賦。役。令。又。凡。正。丁。歳。役。十。日。云。云。次

丁二人同一正丁中男云々云々ありて男年廿一より六十までなるを正丁云々六十一より六十五までなるを次丁云々十七より二十までなるを中男云々ありて残りの残疾ある者を云々此れ年壯より老に次丁云々依なりて歳役十日云々ありて加えて其役あり品より定まりて役なり

よりて其丁云々名ありて役丁荷丁軍丁丁匠運丁物運丁を計あきは二万仕丁云々ハ孝徳紀ハ仕丁ハ此里人数をひけり

者改舊每三十戸一人宛廩也而每五十戸一人宛廩以宛諸司賦役令ハ凡仕丁者每五十戸二人以一人充廩丁三年一替若本司籍其才用仍自不願替者聽孝徳ハ此事二処に見え共毎五十戸一人あり令ハ二人ありハ一人を写誤するやあり又或人の考以一人仕丁十人の内ありて其一人を廩丁とす

るなり廩の義解も猶使也言給使於汲炊即与火頭同也ありて其十人の汲炊なや諸事をいかなる者あり

持統紀も諸司仕丁一月放假四日類聚國史も延暦廿四年十二月公卿奏議曰云伏望所點加仕丁一千二百八十一人依数停却云許之なや見とて諸國の民五十戸の内より一人於て京より上りて諸の官司に役する者なり三年於て替る職負令諸の官司も直丁若干人駈使丁若干人あり是なり

書紀雄略卷も信濃國直丁と武藏國直丁侍宿相謂曰云々持統卷も賜直丁八人官位云々其官司も候ひて役ハかへハヨホロ訓少直丁ハ其官司も候ひて役ハ駈使丁ハ外駈行く事も役ハ候て此らハ後の御定免なるも上代のさも大方ハ此も甚く異なること

也無かりし見ゆ此あるは吉備の児嶋比民の仕丁

と差れて難波京よて主水司お使ひ居る者なり

○是の字の隨に許礼や訓法し上るも往く此例あり

記漢文よりあるやん用ひざる異あり○退已國ハかの令に三年一替也

ある如く替了て吉備國お還ふなり持統紀に新羅仕

丁八人返于本土仍垂恩以賜禄新羅國の民をも仕丁

しよこそさむ此ハ續紀十三ハ仕丁役畢還郷始給

程粮程粮の途中なを見むなり退ハ麻加流也訓法し

万葉あやも麻加流ハ此字を書は処多し京より他

加流也云他より京○大渡書紀仲哀卷に向津野大濟

豊前國也も有り後淀の大渡なやも云り難波ハ殊

ある地なる故に其津を大津浦を大浦あやも云る如

く其渡を大渡やハ云るなり○所後ハ大后の御從仕

奉りて御船に後れて來りるあり○倉人女此名称

此より外に古書お見あはれ後女藏人云物な

屋争の女もあて藏人の職を仕奉る者なり古今集雜

こやも云く藏人やも笑ひて云く但し其ハ後の事也

たかハ水也藏司の内此女ある核きり後宮職負令

藏司尚藏一人掌神璽関契供御衣服巾櫛服翫及珍

寶綵帛賞賜之事典藏二人掌同尚藏掌藏四人掌出納

綵帛賞賜之事、女孺十人あり。此、司上代よりありけ

ふなる法万葉十五目録中臣朝臣宅守娶藏部女云々なり。若櫻宮段

見むらう。藏官の下傳世八の考合法修一〇。遇一船ハ

布涅阿幣理フネアヘ也。訓法後世のさまなり此詞於かひの

事上事上、彼、仕丁が船事上、て國下る。難波の大渡事上、志

て此、倉人女の乗て、る船此、此行遇キアヒ、するなり。○語云ハ、仕

丁が倉人女此、語告此、ふあり。此、仕丁主水司此、侍ササ、ひハ、間マ

しろ又延佳本、さ延佳本、く延佳本、文延佳本。○天皇者皆延佳本、皆延佳本、字延佳本、なき延佳本、ハ、さ延佳本、か

並並、あ並、る並、法並。皆、字ハ、比日、二字を誤許能基呂、る許能基呂、なり。許能基呂許能基呂、也、訓法

し、也、師の云れし、起し、るし、然し、るし、法し。万葉し、まし、りし、比日し、也し、あり。

○戲遊ハ、多波タハ、礼麻須レイマス、遠也トホ、訓法麻須ハ、坐、遠。書紀景

行、卷ウタゲ、ノ、其、宴樂ウタゲ、之日、群卿百寮ウタゲ、必情在、戲遊、不存、國家、万

葉九十七、丁十七、ノ、容ウチレテヒヨリ、艷ウチレテヒヨリ、縁ウチレテヒヨリ、而テ、曾イモ、妹イモ、者イモ、多波タハ、礼レイ、且テ、有アリ、家ケル、苗ケル、古今集

秋上トガ、ノ、百種トガ、の花トガ、比トガ、紐トガ、々トガ、秋の野トガ、思トガ、ひトガ、とトガ、りトガ、水トガ、むトガ、人

なトガ、咎トガ、免トガ、そトガ、後撰集トガ、雜トガ、一トガ、小トガ、まトガ、免トガ、なトガ、れトガ、柳トガ、あトガ、ごトガ、名トガ、ハトガ、とトガ、らトガ、ぬ

とトガ、りトガ、鳴トガ、よトガ、るトガ、白浪トガ、をトガ、濡衣ヌレギヌ、にトガ、着キ、てトガ、又トガ、別トガ、ノ、名トガ、ハトガ、とトガ、らトガ、ぬ

河トガ、ぎトガ、ふトガ、ぞトガ、思トガ、ふトガ、とトガ、りトガ、水トガ、鳴浪トガ、のトガ、ぬトガ、れトガ、衣トガ、いトガ、くトガ、よトガ、着キ、たトガ、らトガ、ぬ

字鏡トガ、ノ、媯遊トガ、逸トガ、也トガ、戲也トガ、不トガ、介トガ、苗トガ、又トガ、太波タハ、苗トガ、又トガ、太波タハ、志トガ、な

媯也トガ、耽也トガ、太波タハ、志トガ、まトガ、とトガ、媯トガ、戲也トガ、遊也トガ、不トガ、介トガ、苗トガ、又トガ、太波タハ、志トガ、な

也トガ、齊明紀トガ、ノ、妖トガ、女トガ、也トガ、ありトガ、万葉トガ、ノ、風流士トガ、又トガ、○不

聞者此事乎ハ。舊印本ハ。省コトキレ。此事伎許志賣佐泥加母

也訓彦。泥ノ下ニ婆ノあり。中昔比雅言ハ。伎許志賣佐

泥婆夜也云意子て。其婆を省きとる例。万葉亦也。多

ハ。五丁。十二月尔者沫雪零跡不知可毛梅花閑舎

不有而。此三の句也同ト是をシラヌカモ也訓るハ古

なる。御船ハ先づら坐る大后の御船なり。○追近ハ

淤比斯伎且也訓彦。近ハ字のまにチカヅキテ也

ハ。オヒツキテ也訓彦。斯伎ハ及りて下ある大御哥ハ阿

賀波斯豆摩迹伊斯岐阿波牟迦母也。斯岐なり。○

白之状具如仕丁之言ハ。仕丁賀伊比都流碁登阿理佐

麻都夫佐尔白志伎也訓彦。ハ。漢文ざりなり。上卷

更往迴其天之御柱如先也。阿ふをハ更其天之御柱

を先ノ如往迴也賜き也訓彦。同格なり。傳五の三葉

○投棄ハ。那牙宇且賜比伎也訓彦。棄を宇且也云る

神ノ御哥ハ見え。此御為態加の言立者足母阿賀迦尔

嫉妬也。ある心は牙なり。夫木抄ハ推僧正公朝難波江

堪ぬ色を見せ也。此の御津前ハ書紀仁賢卷六

難波御津齊明卷。細書ハ難波三津之浦。万葉一丁廿六

大伴乃御津乃濱松又。廿七大伴乃美津能濱三十五

三津埜十五丁。大伴乃美津能等麻里な也。多

古難波より船發フネダナはるゝ主也此津より發タチ又此津小泊ハテ
るめし事万葉此歌也人々數多タビタよるるが如し加て
おのたう。難波の内の一此地名やなれるあり難波
古圖キカクは高津カウツの西方海辺は三津里街津濱あり其処な
る津ツ。三津ミツ社三津寺あり。三津寺古今集雜下詞書
江次第エノシなやみを見ゆ。さて大伴乃御津オホトモノミツ也。又稜威サカサの意イはなむ。伊弉イサ美ミ也。通小例トウコト上卷建御
雷神ライカミの下傳五の七十三葉は云るが如し。又稜威サカサの都
は必清音ヒナなるるや。上云り此大伴の御津也。如く云
けの事昔より詳なる説ふ。冠辞考カウジカウ此説もよろし。か
ら又冠辞考カウジカウ此御津を住吉の津也。一の如く云
るるを違り。住吉津の事ハ書紀カキヨミより。二十二年春正
上月ツキ天皇語ミコトノコト皇后曰納八田皇女將為妃時皇后不聽爰天

皇歌以乞於皇后曰云々。皇后答歌曰云々。天皇又歌曰
云々。皇后答歌曰云々。天皇又歌曰云々。皇后遂謂不聽
故默之亦不答言。三十年秋九月。皇后遊行紀國到熊野
岬シノサキ即取其處之御綱葉ミツノカハ。葉ハ始ハジメ而還ユキ於是日天皇伺皇后
不在而娶八田皇女。納於宮中。時皇后到難波。濟聞天皇
合八田皇女而大恨之。則其所採御綱葉ミツノカハ投於海而不著
岸。故時人号散葉之海曰葉濟也。云々。河内。謂御津前也。曰
葉濟也。傳の異ある。此ハ書紀カキヨミ此方正マサカタ加る。津ツの難波
濟景行紀セキヨウキもを見えり。其ハ後御津也。云名ハ。大
の名を以て。語傳コトツタヘする物なり。御津也。云名ハ。大
津也。云も同く。此津を称ナヅケする名也。こを聞ゆ。然シカド此

記の傳ハ、御綱ミツナ云名ナの似ニカク混マひミ物モノなり。
 又御津を三津ミツ云々書ハ、借字カあり。難波津高津
 敷津シれ三ミを云イなハ云ハるコト説トあり。但レ柏渡カを地方トコロハ御津
 のありナなる津ツ攝セ。

志シハ長柄川ナガテニ在ニ如クク
 云イるコトハ地理チヲ加カずル。

即不入坐宮而引避其御船游

於堀江隨河而上幸山代此時

歌曰都藝涅布夜夜麻志呂賀

波袁迦波能煩理和賀能煩禮

婆迦波能倍邇淤斐陀互流佐

斯夫袁佐斯夫能紀斯賀斯多

邇淤斐陀互流波毘呂由都麻

都婆岐斯賀波那能互理伊麻

斯。芝賀波能比呂理伊麻須波。

淤富岐美呂迦母。

不入坐官而云くハ天皇を恨み奉賜ひて背き賜ふ御所為なり官ハ難波の皇宮あり○引避ハ比伎与伎互

何處將行與奇道者無荷十一丁二崗前多未足道乎人

莫通在乍毛公之来曲道為古今集春吹風詠了囑

波をバ避てなり○泝於堀江堀江ハ上又出ハ堀江表

冬訓修きぐ如くあまきも於字あるハ尔也訓修き

九丁み保里江欲利美乎左可能保流梶乃音乃

難波官を避賜ふを御心なる故又何処ふやなく

○山代上み出○此時やハ河を上り坐間云○都藝

ある二首のハ、夜字あり。二首のハ、無し。あるとぞ。師ハ
 行なりやせ。れ。此。も。次。なる。も。諸。本。共。有。ま
 バ。今。ハ。さ。て。繼。苗。生。や。あ。り。夜。ハ。余。や。云。む。か。如。し。那。那
 何。なる。なり。繼。苗。生。や。あ。り。歌。ひ。出。し。し。る。辞。あり。那。那
 を。切。ぎ。て。泥。や。云。り。繼。苗。や。ハ。山。の。樹。を。伐。取。る。跡。又
 又。繼。て。樹。を。生。し。立。む。料。又。植。る。苗。を。云。生。ハ。其。苗。茂。豫
 て。蒔。生。し。設。け。置。く。地。なり。粟。田。豆。田。淺。茅。生。蓬。生。な。ど
 其。生。や。け。て。稻。の。苗。を。蒔。生。け。る。田。を。苗。代。や。云。如。く。か
 り。す。り。此。山。の。樹。に。繼。苗。を。生。け。る。地。を。山。代。や。云。なる。は。し。凡
 る。山。に。用。ハ。材。之。出。次。を。主。や。次。る。故。又。即。材。を。伐。取。ふ
 事。を。山。や。云。て。拙。人。の。材。を。伐。初。は。山。口。や。云。又。材。を
 ハ。材。よ。り。此。ハ。其。伐。出。次。倍。き。材。の。繼。苗。を。生。け。る。地。な
 る。を。以。て。山。代。や。云。り。万。葉。小。南。木。代。や。書。候。ハ。此。義

る。を。以。て。山。代。や。云。り。万。葉。小。南。木。代。や。書。候。ハ。此。義
 候。南。木。ハ。代。離。し。て。意。を。取。る。や。き。ハ。材。之。伐。出。次
 を。生。立。る。繼。苗。に。意。あり。向。き。又。取。て。此。又。か。なる。や。り
 毛。相。明。此。繼。苗。生。の。考。を。以。て。か。の。南。木。代。や。書。了。義。を
 候。し。此。枕。詞。ハ。繼。苗。生。之。山。代。や。云。意。又。此。は
 け。つ。る。なり。然。る。後。昔。より。万。葉。又。次。嶺。經。書。候。又。依
 ハ。當。ら。ま。た。次。嶺。や。云。言。也。い。か。ば。なる。う。り。又。山。城
 國。ハ。大。和。より。よ。り。程。近。き。山。一。重。を。こ。そ。越。き。さ。り。よ
 ば。う。り。續。き。つ。る。山。を。經。て。行。國。さ。て。山。代。ハ。本。より。一
 國。の。大。名。よ。り。も。あ。る。は。ら。は。れ。又。思。ふ。又。始。ハ。か。れ。繼
 苗。生。を。云。山。代。より。負。る。一。郷。な。り。の。名。よ。り。も。あ。り。け
 多。本。より。一。國。の。名。よ。り。も。此。枕。詞。○夜。麻。志。呂。賀。波。表
 の。終。り。也。此。意。ハ。同。じ。と。なる。なり。

山代河をなり。此河ハ山城風土記ハ賀茂建角身命

云々至山代國岡田之賀茂隨山代河下坐葛野河與賀

茂河所會至坐也所不依は淀より上りて木津川

と云(な)此川淀より宗治川と合て其より淀川

は淀川と云多山代國より流來水也淀より下

りて山代川と云まきと非れども風土記

依て木津川と云修し然は契沖の書紀にてハ木

津川なる修し云あがら又右事記よりハ於堀江隨

河而上幸山代と云て歌あれを淀川を山城川と詔す

はぬ間を云るハ上幸山代と云る未山代と到着賜

は既山代と入賜すうすもいさくも妨

なもふ不彼風土記を考す漏せし故又やかく代論を

ハ上方相樂郡林ありて木津川右の名ハ泉川なり其

云ハ其下綴喜郡久世郡なりと經る間此名もて也あ

る修し又國名なりを泉川と云ありりてかまて凡

て山代川と云○迦波能煩理ハ川上なり川を

しめもあり修し○迦波能煩理ハ川上なり川を

御船より浙坐を詔す此迦波ハ直ハ山代川を指て

詔ふるハあま淀川の下方を詔するなり淀川を上

りて山代川を吾上とて意を移ぐく意あり次なる御哥

此美夜能煩理の延也合せて考ふ修し○和賀能煩礼

婆ハ吾上者なり。○迦波能倍途ハ河之

辺あり此より下書紀ハ異あり次云修し○淤斐

陀互流ハ生立有なり。此言後世より多を清て○佐斯

夫袁ハ夫字延佳本又天中作りハ次句なる夫を奮印

和名抄云楊氏漢語抄云鳥草樹佐之夫乃紀辨色立成
說同字鏡も鳥草樹左之夫世夫也櫛左也也此樹契
沖云今山里人ハさせの木の云云ヒカキ似て小き實
了熟次水を紫此黒みやうみて童なぐハ取て食
ふやを兼るウタヒ拾ハ和名抄又見えて今俗又毘左ノ紀
云木なり出雲風土記又佐世乃木葉也ハ此鳥草
樹ノや云り或人鳥草樹ハ今俗又ハふの木也
あやくふ此木也云云出雲風土記大原郡佐世
乃木葉頭刺而踊躍云々倭姫命佐世
木枝也ある此同書又佐々江御船泊給比其
尔佐々江官造令坐給支也云ハ神名帳又伊勢国
多氣郡竹佐々夫江神社也ある地あり是も此木又因

名 ○佐斯夫能紀夫字舊印本又一本延佳本な
を假字又用ひる例あり天也作るハ誤なり記中又天
今ハ真福寺本又依り上同じ契沖也師也上乳
子句此終の表を此句此首カレラ又属て小の義也セら
ま也然了ハ二句此連きの調レらし○斯賀斯多途ハ
其之下カふあり斯賀ハ其上カミ又云る物を指て其ソレ云
るやれり此御段下ある哥おも塩ミやき斯賀阿麻理
甕栗官段哥又斯賀阿礼婆書紀雄畧卷哥小志我ガ都矩
屢麻泥尔ニ旨我那替摩万葉五三十又愛久志我ガ可
多良倍婆十八二十小之我願心太良比ニ十九二十
鷓河立取左牟安由能之我波多波又七十黄楊小櫛之

賀左志家良之又九十秋花之我色く尔なやある。皆同
じ。朝倉宮、段、太后、御哥。此也全同。似る多ある。曾賀
波能云く。其の葉又曾能波那能云く。や何るもて。斯賀
ハ其の也同きを知法。然子を契沖が斯賀ハ已
云。已が之の書を佐也斯也通ぶ也。斯賀也。佐賀也。也
父乎取久乎思良尔十二。已之狀乎取久乎不知已之
已之家尚乎十六。已妻尚乎高麗劍已之景迹故十二。又
訓ふ也。依るなれ也。佐賀也云く。古言ある。云く。宜
なし。右の已之ハ皆師を云き。如く和賀也。訓て宜
きをいのなる由をてサが也。ハ訓けむ。り也。心得也。且
右の已之ハ皆字の如くおのが也。云意我之也。云意な
まるハ斯賀也云く。ハい。○淤斐陀豆流上又同じ。○波毘
呂ハ三言の葉廣なり。中卷玉垣宮、段、葉廣熊白檮也
句なり。

も何り彼處の毛云る如く。此ハ一葉れうすを云ふハ
非で葉のもの栄え廣らぬ一樹のな信てのうすを
云ふるも。白カ檮を椿も然云ハりり葉の○由都麻都婆
岐ハ舊印本延佳本なやハ麻字を婆也作也若然ら
本なやハ麻也何るも依り次を引る。五百箇真椿な
朝倉朝、太后、御哥なる也。麻ありなり。五百箇真椿な
り。由都の義ハ上卷湯津石村湯津楓ありの也云り。
傳五の七十一葉。椿の枝葉れ繁く多きを云なり。都婆
十三の二十七葉。椿の枝葉れ繁く多きを云なり。都婆
紀ハ云名ハ即チ五百箇葉木の謂なり多の。或説也。艶葉
言古也。艶也云。和名抄ハ唐韻云。椿木名也。和名豆波木
揚氏漢語抄云。海石榴和名上同本朝式等用之也あり。

書紀も海石榴を書り万葉小の多く椿を書り此ハ
まきまきこやなき樹なり水字 さて鳥草樹ハ
ハヤクてもかくてある樹シ 高くとなる樹ハ非るに椿の其下ハ生立る也ハ由
非ハ鳥草樹ハ川岸のやハ高き処ハありて其下方低
き処ハある椿ある樹シ ○斯賀波那能ハ其之花のな
り 斯賀ハ椿を指す ○互理伊麻斯ハ照坐しあり万葉
十八丁二ノ等許余物能已能多知婆奈能伊夜互里尔
和期大皇波伊麻毛見流其登 ○芝賀波能ハ其之葉の
なり ○比呂理伊麻須波ハ廣り坐者あり比呂理ハ
廣くある額を云て寛く坐くよしなり 朝倉宮段大

后御哥云云 淤斐陀豆流波毘呂由都麻都婆岐曾賀
波能比呂理伊麻志曾能波那能互理伊麻須多加比加
流比能美古尔云云 ○淤富岐美呂迦母ハ大君歟をよ
て呂ハ助辞なり 呂迦母云辞中卷明宮段大御哥小
表陀互呂迦母也 あり下云云 傳三十二の此御哥迦
波能倍迹云云 句あり 書紀あり 異あり 箇波區葦理多知
瑳箇踰屢毛く多羅儒椰素麼能紀破於朋耆淤呂箇茂
也 あり 椰素麼能紀ハ八十葉の木あり 何の木ハ
名抄ハ楓和名曾波乃木也 あり 契沖和
万葉十三云云 百不足山田道乎これハ山のやをハ取
て終ぐけり云云 あり 非なり 凡て百不足ハ八十又

袁美夜能煩理。和賀能煩禮婆。
 阿袁邇余志。那良袁須疑。袁陀
 互夜麻登袁須疑。和賀美賀本
 斯久邇波迦豆良紀多迦美夜。
 和藝幣能阿多理。如此歌而還。

暫入坐筒木韓人名奴理能美
 之家也。

シニレツ、キノカラヒトナハヌリノミガイヘニ
イリレキ
タテ 廻中ハ難波ありよりハ倭國ヲハ河内國を経て往
タチ 直道なる久山代あり物けるハ廻曲なる道ふる故
タチ 云あり○那良山口那良ハ上より出傳廿五の山口ハ夜
タチ 麻能久知也添能を訓修し月次祭祀詞ハ山能口坐皇神
タチ 等乃云く也河内なるハ此山ハ山城國相樂郡よ
 大和國添山郡奈良を越る道ありはゆる奈良坂

なり。方葉一十三。又青舟吉奈良能山乃。又十六。青舟吉
 平山乎越三十四。又佐保過而寧樂乃手祭尔置幣者。祭
 俗なり。云十三。六。小。緑青吉平山過而。又七。見不飽。櫛山
 越而十六。十九。尔。奈良山乃。児手柏之。云十七。廿。小。青舟
 余之奈良夜麻須疑底泉河。あぢあり。さして書紀より。時
 皇后不泊于大津更引之。所江自山背廻而向倭云。即
 越那羅山望葛城。歌曰。やありて。御哥ハ此記也。全同じ。
 加つてこめ。越那羅山云。やあり。依る。此記
 山口也。あるハ。那良の方より上る。山口あり。記よりハ。山
 を越坐。云。云。直。山。山口也。あるハ。山城の
 方より上る。吟の如。聞ゆ。書紀也。合せて考る。と。

ハ。然。倭京のころハ。其方を常。那良山口也。云。な
 き。可。に語傳。詞。此ハ。山代より来坐
 依方。云。云。ハ。河。れ。也。其山を越坐。事ハ。云。て
 毛。如此云。可。バ。倭の方。比。口。也。聞。也。なる。修。し。見。ガ
 かし。國ハ。云。云。や。よ。み。給。する。さ。ま。も。山代の方。比。山口
 みて。詔。す。り。や。せ。多。よ。り。ハ。書紀の如。く。那良山を越。て
 葛城を見。や。め。て。よ。り。賜。ふ。○都藝。泥布。夜夜。麻。斯。呂。賀
 也。ゆ。る。方。勝。ア。て。き。き。ゆ。○婆。也。作。る。ハ。誤。あり。
 波表ハ。波。字。舊。印。本。又。一。本。な。ま。ま。婆。也。作。る。ハ。誤。あり。
 今ハ。真。福。寺。本。延。佳。本。又。一。本。ま。ま。婆。也。作。る。ハ。誤。あり。
 上。なる。よ。同。じ。○美。夜。能。煩。理。ハ。宮。上。り。なり。難。波。宮。を
 避。過。て。所。り。賜。ふ。を。詔。す。り。の。意。ハ。御。言。の。外。又。
 沖。が。箇。城。官。を。作。り。て。坐。ま。さ。む。む。思。食。せ。ど。か。く。ハ。詔。す。
 云。云。ハ。叶。は。え。然。思。食。せ。ど。や。て。其。官。未。造。り。給。ハ

ぬふりかたで官上ウツリなり。詔ふ修シユき且ツク此言ハ官を上ウツリ云
 意よりそあれ官上ウツリなり云意よりハ取トルかカし又師ハ美
 夜ハ水脈ミヅノなり遠江國人ハ川のみよ。此ハ官上ウツリ
 云クなり云れルなり其ノもりかハ。此ハ官上ウツリ
 山代川を吾上ガホなり。句ク文序ツクて心得ココロ得トクし。御哥ミツカの
 迦波能カハ煩ワザ理リの処トコロ。○和賀能ワガ煩ワザ禮レ婆バ上ウツリなる。○
 云クなり考カウ合カヒ次ツギ修シユし。○和賀能ワガ煩ワザ禮レ婆バ上ウツリなる。○
 阿表アヒ迹ツグ余志ヨシハ那良ナラの枕詞マクシにて青土アヲニよしなり。青土アヲニハ
 色青イロアヲニき土ツチあり。明官アカミ段ノ大御哥オホミツカハ和迹ワツグ佐能迹サノツグ表ヒラ云クなり
 阿ア眉マユ画ガキの料ネなり。青土アヲニあり。思オモひ修シユし。余志ヨシハ
 冠辞カウジ考カウし。余ヨシ呼ヒ出デ次辞ツギして志シハ助辞ツクなり。此コノ余志ヨシハ
 云辞クジを添ソフし。例レ真菅マニよし。玉藻タニモよし。大魚オホイサよし。阿佐母アサモ
 よし。余ヨシなり。多タし。修シユし。阿ア如カし。契ケ沖チウハ万葉十三マンヤウジウサン又
 緑キナンド青アヲニ吉キチ也ヤ書シる。又マタ依ヨ

て古コノ奈良ナラより。好コトき緑青キナンドを出デしける故ユなり。修シユし。云ク
 毛モウ阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。故ユハ万葉マンヤウあり。其ノ字ジを借カりて。古コノ緑青キナンドを
 こもあコる。免メ實マコトハ緑青キナンドなり。非ヒじ。緑青キナンドあり。那良ナラ也ヤ於オ
 於オく修シユし。由ユなり。明官アカミの大御哥オホミツカ比ヒ迹ツグハ眉画マユガキの料ネ
 なり。御哥ミツカを以モて。緑青キナンドなり。非ヒじ。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。然シカる。修シユし。知チ
 修シユし。又マタ余志ヨシを記キの義ギ也ヤ。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。冠辞カウジ考カウ
 又マタ辨ハり。余志ヨシハ伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 百丹ヒヤクニ杵シ築キ官クニなり。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 志シ也ヤ。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 ハも。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 百ヒヤク也ヤ。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 也ヤ。夜ヤハ通トウる。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 也ヤ。清濁セイダクの説セツ也ヤ。心ココロ得トクし。八百ヤクの百ヒヤクを。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 ハ據ヨリなり。保ホ也ヤ。思オモひ也ヤ。八百ヤクの百ヒヤクを。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 也ヤ。唱ナウる。保ホ也ヤ。思オモひ也ヤ。八百ヤクの百ヒヤクを。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 乃ノ也ヤ。凡ニて。波比ハヒ布フ用ヨウ保ホ也ヤ。思オモひ也ヤ。八百ヤクの百ヒヤクを。阿表アヒ迹ツグ也ヤ云クし。伊岐イツキ豆岐マツキ能ノ美ミ夜ヤ出デ雲クモ國クニ造ツク神カミ賀カ詞コト又マタハ
 唱ナウる。後ノチ世ヨの音ネ便ベンなり。和ワ韋ヱ宇ウ惠ヱ乎ハの如カ也ヤ。修シユし。那ナ

あり。彼時なげりし。然轉し用る。律少ハ。何も。修くも
何。之。故。本より。那良の枕詞なる。こ。や。ハ。動。り。し
思ふ。○那良表須疑ハ。那良を過なり。○表陀豆ハ。諸本
下。夜麻。二字あり。今ハ。真福寺本。無き。依。ま。り。其
故。ハ。書紀。も。其。二。字。なし。義。も。無。き。方。ま。さ。れ。ば。な。り。
抑。真。福。寺。本。ハ。凡。て。誤。字。脱。字。の。い。や。多。き。れ。ば。此。二。字
毛。脱。し。る。う。や。も。思。可。也。然。る。に。非。じ。餘。の。諸。本。よ。り。
ハ。次。なる。夜麻。より。紛。れ。し。倭。の。枕。詞。も。て。小。楯。なり。倭。國
て。重。あ。れ。る。物。なる。修。し。倭。の。枕。詞。も。て。小。楯。なり。倭。國
は。楯。を。立。並。修。し。る。如。く。山。の。周。り。る。國。あ。る。以。て。云
こ。さ。る。委。と。ハ。國。号。考。よ。云。る。が。如。し。楯。を。表。陀。豆。と。し。ハ。
明。宮。段。の。大。御。哥。も。よ。り。せ。り。○夜麻登表須疑ハ。倭
を。過。ふ。此。ハ。城。下。郡。なる。倭。郷。を。詔。す。此。郷。の。事。ハ
國。号。考。よ。委。云。り。さ。て。表。陀。豆。と。云。枕。詞。ハ。一。國。に。う。り

よ。その。形。け。な。れ。ば。名。の。同。き。り。に。此。ハ。郷。の。倭
も。詔。す。る。あり。此。郷。名。を。國。大。名。より。出。さ。て。須。疑。と
ハ。那。良。也。此。も。今。其。地。を。過。て。往。賜。あ。り。ハ。非。文。此。御
那。良。山。口。よ。り。て。よ。み。給。す。る。よ。り。其。地。よ。り。山。吾。欲。見。國
代。子。還。坐。ぬ。ま。ハ。那。良。ま。て。も。至。坐。ざ。れ。を。吾。欲。見。國
者。此。地。よ。り。那。良。を。過。ぎ。倭。を。過。て。行。葛。城。と。云。意。あり。
は。れ。を。阿。表。迹。余。志。より。是。よ。ぎ。の。四。句。ハ。久。迹。波。と。云
句。の。下。よ。移。し。て。心。得。修。し。○和賀美賀本斯ハ。吾。欲。見
なり。契。冲。云。見。づ。か。し。ハ。見。可。く。あ。り。顯。宗。紀。の
哥。よ。野。麻。登。陞。你。泚。我。保。指。母。能。波。於。尸。農。泚。能。首。能。拖
哥。紀。難。屢。都。奴。娑。之。能。泚。野。と。よ。り。万。葉。よ。多。し。と。云

万葉三十九丁。春日者山四見容之。又八丁。儕立乃見
泉石山跡六丁。山見者山裳見顔石十一丁。見
我欲君我十七丁。夜麻可良夜見我保之。加良武十
八丁。移夜時自久尔奈保之。見我保之。又伊夜見我
保之久十九丁。小真珠乃見我保之御面なり。万
二見容之。書るハ昔より。保を遠のや。云々。後
や。契冲ガ云るハ非文。凡て容の保の類を。表也。呼
後世音便。類も。言も。古ハ波比布。保
の如く。呼言ハ。今。正しく云て。音便。和。韋。宇。惠
の心を以て疑ふ。今。非文。○久迹波ハ。三言。國者な
也。○迦豆良紀ハ。四言。葛城あり。此地上より出。○多迦美
夜ハ。四言。高宮なり。和名抄。大和國葛上郡高宮。多加

美也。これなり。書紀垂仁卷。天皇幸来自居於高宮皇
極卷。蘇我大臣蝦蟇立已祖廟於葛城高宮持統卷。
天皇幸高宮なり。書紀釋。引る。土佐國風土記。
葛城山東下高宮岡也。○和藝幣能阿多理ハ。吾家
之當あり。和賀伊幣を切。和藝幣也。云。万葉の
多し。五卷。ハ。和何幣也。又催馬樂。和伊幣
音便。阿多理ハ。其近き。かけ。緩や
に云言。今俗。云。全同意なり。中昔の物語書。な
理也。万葉。小當也。書。此字の意。より出。俗言の
今俗言。某の。邊。云。異なり。さて
邊。ハ。あ。れ。也。邊。云。ハ。異なり。さて

如此よみ賜する故ハ此大后の御父ハ葛城之曾都毘
古也申せられ葛城ハ本御郷多て其家高宮小ぞ在り
むルて女人ハ夫ヲ屬てハ夫の家を家也ハ依るを其
夫ヲ背く時ハ依所なきまゝ又親の家を恋志く思
ふなりひあれを今此大后も天皇も背奉賜あせして
難波宮を避過て宮上め也あ山代川をそとけり也な
く上も賜ひしわや依所あく所念次下上に上の吾
魁ある礼婆の辞を吾欲本郷恋しくなりて葛城に帰
ら多也所思しありて那良山を越給ひしうやも志り
次下今更故郷小歸らむ事也如何也や依れり也

得物し給はる所思返志て又山代の方子還賜ひむ也
依る時其所念せる御情を述賜するなり書紀の趣
倭ハ幸む也所思儲もて川を上り坐るご也聞わたり
然まやもさるる必果して葛城に到給はてり也
山代に還坐はるる那良山を越て此御哥よまゝして忽ち
やせしはるる山代川を上り賜小間よおのしよれり
加すられし書紀に向倭也初よあるハ例の撰者の
なり此還を師ハ辞あり指所の高宮もハ至坐て却
文○暫ハ斯麻志を訓治し又斯麻良久也も訓治し
万葉十五丁之麻思久母十四丁此一丁十八丁六丁布
祢之麻志可勢十四丁二十丁思麻良久波な也あり又万

卷二、須史を書るるも右の如く訓修し、今本よりハ、
書る所此、ハ、如ク此云るハ、ハ、苟且ツかめり、ハ、入坐る由な
ハ、ハ、○筒木ツ、キハ、和名抄、山城國綴喜郡豆、ハ、綴喜郷木、豆、ハ、
これなり、今世、普賢寺庄、ハ、十村ある、これ古の綴
喜郷なり、ハ、都豆ハ、綴喜、ハ、下ハ、の都を濁て、ハ、非なり、綴字
ハ、テツの音を取らるるなり、ハ、終り、ハ、訓を取らるるなり、
ハ、ハ、書紀継躰、卷二、五年冬十月遷都山背筒城、ハ、あり
ら、ハ、同亡年まで、ハ、此、ハ、宮敷坐せり、ハ、此、ハ、宮のころ、ハ、此、ハ、万葉十
三、ハ、五、ハ、小、ハ、空見津倭國青丹吉寧樂山越而山代之管木之
原云く、ハ、○韓人カラ、ヒやん、韓國人の歸化であるを云り、ハ、此、ハ、
其、ハ、筒木ハ、に住居るなり、ハ、○奴理能美ハ、ハ、ハ、美、ハ、使主なり、ハ、上
の、ハ、能、ハ、美、ハ、使主なり、ハ、上

る故、ハ、美、ハ、使主の、ハ、姓氏録、ハ、京調連水海連同祖
事ハ、ハ、穴穗宮、ハ、段、ハ、云、ハ、修、ハ、百濟國、ハ、努理使主、ハ、之後也、ハ、誉田、ハ、天皇謚、ハ、應神御世、ハ、歸化孫
百濟國、ハ、努理使主、ハ、之後也、ハ、阿久ア、ク、ダ、ガ太男、ハ、弥和、ハ、次賀、ハ、夜次、ハ、麻利、ハ、弥和、ハ、弘計、ハ、天皇謚、ハ、顯宗御
世、ハ、蠶織、ハ、献、ハ、絶、ハ、給、ハ、之、ハ、様、ハ、仍、ハ、賜、ハ、調、ハ、首、ハ、姓、ハ、右、ハ、民、ハ、首、ハ、水、ハ、海、ハ、連、ハ、同
相、ハ、百、ハ、濟、ハ、國、ハ、人、ハ、努、ハ、利、ハ、使、ハ、主、ハ、之後也、ハ、山城、ハ、民、ハ、首、ハ、水、ハ、海、ハ、連、ハ、同
相、ハ、百、ハ、濟、ハ、國、ハ、人、ハ、努、ハ、理、ハ、使、ハ、主、ハ、之後也、ハ、河内、ハ、水、ハ、海、ハ、連、ハ、百、ハ、濟、ハ、國、
人、ハ、努、ハ、理、ハ、使、ハ、主、ハ、之後也、ハ、同、ハ、調、ハ、曰、ハ、佐、ハ、水、ハ、海、ハ、連、ハ、同、ハ、相、ハ、な、ハ、る、ハ、也、
又、ハ、山城、ハ、伊、ハ、部、ハ、造、ハ、百、ハ、濟、ハ、國、ハ、人、ハ、乃、ハ、里、ハ、使、ハ、主、ハ、之後也、ハ、右、ハ、民、ハ、首、ハ、水、ハ、海、ハ、連、ハ、同、
此、ハ、人、ハ、あ、ハ、る、ハ、修、ハ、右、ハ、の、ハ、氏、ハ、く、ハ、何、ハ、れ、ハ、も、ハ、諸、ハ、は、ハ、て、ハ、今、ハ、大、ハ、后、ハ、の、ハ、其、ハ、家、
入、ハ、坐、ハ、は、ハ、子、ハ、以、ハ、思、ハ、す、ハ、ハ、ハ、此、ハ、人、ハ、を、ハ、百、ハ、濟、ハ、國、ハ、の、ハ、貴、ハ、族、ハ、と、ハ、皇

國お志ても宜き侍ありてを在^{アリ}經^ヘけ^テ多^クの氏^ノくも^もあ^まま
 したあめけ^りか^つて大^大后^ノの此^ノ家^ノも^も入^入坐^坐る^ること^ハ此^ノ
 也^也指^シて来^来坐^坐て^てよ^よん非^非じ^じ御^ミ故^コ郷^{コト}を^を志^志ぬ^ぬ婆^婆志^志て^て那^那良^良山^山
 口^口まで^でお^おつ^つし^し給^給れ^れや^やも又^又思^{オモ}ひ^ひし^しか^か子^子し^して^て山^山代^代還^還り
 賜^ミひ^ひ給^給れ^れや^やも難^難波^波宮^宮よ^よんな^なり^り歸^歸ら^らじ^じを^を所^{カモ}思^ホせ^せを^をさ
 し^しあ^あつ^つめ^めて^て入^入坐^坐給^給き^き延^延の無^無き^き可^可く^くよ^よま^ま給^給苟^{カリン}且^且よ^よ此^此
 家^家よ^よん入^入坐^坐候^候あ^ある^る侍^侍し^し暫^シ也^也あ^ある^るふ^ふ心^心を^を著^ツ候^候ハ^ハ其^其
 比^比来^来殊^殊と^と親^親と^と奉^奉仕^仕す^すし^し由^由縁^縁な^なを^をあ^あめ^めら^らる^る知^知る^る
 ら^ら文^文書^書紀^紀よ^よん更^更還^還山^山背^背興^興宮^宮室^室於^於筒^筒城^城岡^岡南^南而^而居^居之^之也^也
 あ^あめ^めて^て奴^奴理^理能^能美^美が^が家^家よ^よ入^入坐^坐し^し事^事ハ^ハ見^見む^む文^文

スメラミコトオホギサキヤマレヨリノボリイデマレヌトキコレメシテ

天皇聞看大后自山代上幸而。

トネリナハトリヤマトイフヒトラツカハレケルトキニオクリタマヘルニウタ

使舍人名謂鳥山人送御歌曰。

夜麻斯吕邇伊^イ斯^シ祁^ケ伊^イ斯^シ祁^ケ阿^ア賀^ガ波^ハ斯^シ豆^ツ摩^マ。

伊^イ斯^シ祁^ケ伊^イ斯^シ祁^ケ阿^ア賀^ガ波^ハ斯^シ豆^ツ摩^マ。

邇^ニ伊^イ斯^シ岐^キ阿^ア波^ハ牟^ム迦^カ母^モ。

天 對 齊 中 國

上幸^{イデ}の倭國^{イデ}に幸^{イデ}せざるを云古の御世^{イデ}くく倭京^{イデ}のや
やハ九て倭小行^{イデ}をバ上^{イデ}るや云^{イデ}あ^{イデ}る可^{イデ}く^{イデ}は語傳
可^{イデ}く^{イデ}る詞^{イデ}なり。此^{イデ}時^{イデ}ハ難波^{イデ}京^{イデ}なり^{イデ}も御世^{イデ}くく多く
あり。又難波^{イデ}京^{イデ}の時^{イデ}も御世^{イデ}くく^{イデ}云^{イデ}あ^{イデ}る可^{イデ}く^{イデ}ま
ま小^{イデ}な^{イデ}倭^{イデ}小^{イデ}行^{イデ}を^{イデ}上^{イデ}る^{イデ}や^{イデ}ハ云^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。○聞
看^{イデ}看^{イデ}字^{イデ}舊^{イデ}印^{イデ}本^{イデ}又^{イデ}一^{イデ}本^{イデ}。其^{イデ}誤^{イデ}り^{イデ}又^{イデ}一^{イデ}本^{イデ}又^{イデ}一^{イデ}本^{イデ}ハ
者^{イデ}其^{イデ}誤^{イデ}り^{イデ}。そ^{イデ}ハ者^{イデ}字^{イデ}ハ者^{イデ}を^{イデ}誤^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}て^{イデ}其^{イデ}字^{イデ}ハ^{イデ}あ^{イデ}
者^{イデ}を^{イデ}誤^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。今^{イデ}ハ真^{イデ}福^{イデ}寺^{イデ}本^{イデ}延^{イデ}佳^{イデ}本^{イデ}
脱^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。○舍^{イデ}人^{イデ}ハ上^{イデ}出^{イデ}傳^{イデ}三^{イデ}の^{イデ}鳥^{イデ}山^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}ハ依
て思^{イデ}ふ^{イデ}速^{イデ}行^{イデ}む^{イデ}る^{イデ}所^{イデ}念^{イデ}禱^{イデ}て^{イデ}鳥^{イデ}之^{イデ}名^{イデ}の^{イデ}人^{イデ}を^{イデ}
如^{イデ}遣^{イデ}し^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。○使^{イデ}ハ大^{イデ}后^{イデ}を

留^{イデ}免^{イデ}奉^{イデ}て^{イデ}難^{イデ}波^{イデ}宮^{イデ}に還^{イデ}し^{イデ}奉^{イデ}り^{イデ}賜^{イデ}ハむ^{イデ}て遣^{イデ}せ^{イデ}る^{イデ}御^{イデ}使^{イデ}
なり。○送^{イデ}御^{イデ}歌^{イデ}ハ鳥^{イデ}山^{イデ}行^{イデ}を^{イデ}送^{イデ}り^{イデ}賜^{イデ}ハ御^{イデ}哥^{イデ}あり^{イデ}。此^{イデ}御^{イデ}
哥^{イデ}を^{イデ}贈^{イデ}賜^{イデ}ハ云^{イデ}ハ非^{イデ}交^{イデ}。此^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}を^{イデ}賜^{イデ}ハむ^{イデ}し^{イデ}な
舍^{イデ}人^{イデ}ハ賜^{イデ}ハむ^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。又^{イデ}大^{イデ}后^{イデ}の^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}
や^{イデ}ハ云^{イデ}送^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}あ^{イデ}る^{イデ}。又^{イデ}大^{イデ}后^{イデ}の^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}
毛^{イデ}聞^{イデ}ゆ^{イデ}れ^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}の^{イデ}さ^{イデ}然^{イデ}ハ非^{イデ}交^{イデ}。此^{イデ}大^{イデ}后^{イデ}ハ
贈^{イデ}賜^{イデ}ハ云^{イデ}聞^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}ハ趣^{イデ}ハ然^{イデ}ハ非^{イデ}交^{イデ}。此^{イデ}鳥^{イデ}山^{イデ}
送^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}。又^{イデ}次^{イデ}なる^{イデ}二^{イデ}首^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}
書^{イデ}紀^{イデ}ハ送^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}。又^{イデ}次^{イデ}なる^{イデ}二^{イデ}首^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}
正^{イデ}しく^{イデ}大^{イデ}后^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}る^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}なる^{イデ}も^{イデ}彼^{イデ}処^{イデ}ハ却^{イデ}て
歌^{イデ}曰^{イデ}此^{イデ}のみ^{イデ}あり^{イデ}。彼^{イデ}処^{イデ}ハ然^{イデ}のみ^{イデ}あり^{イデ}。如^{イデ}何^{イデ}ある^{イデ}
送^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}。又^{イデ}次^{イデ}なる^{イデ}二^{イデ}首^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}
正^{イデ}しく^{イデ}大^{イデ}后^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}る^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}なる^{イデ}も^{イデ}彼^{イデ}処^{イデ}ハ却^{イデ}て
歌^{イデ}曰^{イデ}此^{イデ}のみ^{イデ}あり^{イデ}。彼^{イデ}処^{イデ}ハ然^{イデ}のみ^{イデ}あり^{イデ}。如^{イデ}何^{イデ}ある^{イデ}
送^{イデ}る^{イデ}も^{イデ}御^{イデ}許^{イデ}ハ贈^{イデ}給^{イデ}ふ^{イデ}如^{イデ}く^{イデ}。又^{イデ}次^{イデ}なる^{イデ}二^{イデ}首^{イデ}御^{イデ}哥^{イデ}

送御歌曰、やハあるは、あれ、かくれ、如く文を入換了
少き人、此も彼も宜きなり。もやよめ然ぞありしむ文。
語傳ふる間、語を取錯りて、今比如くよハあれるな
ら多し、思ひしや、然よハあらじかし。○夜麻斯呂迹
ハ山代より。○伊斯祁登理夜麻ハ、伊ハ、發語よて、及
け鳥山なり。及ハ追及なり。也契冲云り。及ハ俗言、追
著け也云意あり。書紀雄略卷、哥よ、農播、拖磨能、柯彼能
矩盧古磨、矩羅、制播、伊志、柯孺、阿羅、磨志、柯彼能、俱盧
古磨、第四句不及、あ、万葉二、十五、遺居而悲管不有者
追及、武道之隈、回尔、標結、吾勢、この追及を今本よ、オビ
コガム、也訓ハ誤なり。

たのめあり、はて山代より詔するハ、太后山代より幸せ
は故のみもあはる、はく、又未倭國よ至坐ぬ、抄よ山
代國此内、ゆして、追及奉れ、ゆもあはる。○伊斯祁
伊斯祁ハ、及け及けなり。此、御句あてり、かて也、所思者
御心甚切、又、御句、万葉十、九、丁、小、左、小、牡、鹿、之、声、伊、續、伊
繼、な、や、も、あり、書紀よハ、下の、伊ハ、あ、く、て、伊、辞、鶏、之、鶏
ぞあり。○阿賀波斯豆摩迹ハ、摩、字、真、福、寺、本、吾、愛、妻、よ
な、系、大、后、を、指、て、詔、す、り、書、紀、よ、ハ、阿、餓、茂、赴、菟、摩、理、也、
あり、茂、赴、ハ、愛、ハ、万、葉、二、四、十、丁、小、愛、伎、妻、等、者、四、十、丁、
愛、妻、之、見、廿、九、丁、波、之、伎、都、麻、良、波、又、三、十、丁、波、之、伎、多

我^ガ都^ツ麻^マな^ハや^リあり。又^マ四^シよ^シ愛^ウ夫^ツ十^シ三^シよ^シ愛^ウ妻^ツな^ハや^リあり。も
 意^ハ同^ジじ。も^ハ愛^ハ云^ハ言^ハ二^ニ十^シ四^シよ^シ山^ヤ松^マ之^ノ枝^エ者^ハ波^ハ思^シ
 吉^キ香^カ聞^モ三^ニ五^ニ十^ニよ^シ波^ハ之^ノ吉^キ佐^サ室^シ山^ヤ又^マ五^ニ十^ニよ^シ波^ハ之^ノ吉^キ可^カ聞^モ皇^ミ
 子^コ之^ノ命^{ミコト}乃^ハ十^ニ九^ニ一^ニ十^ニよ^シ波^ハ之^ノ伎^キ和^ワ我^ガ勢^セ故^コな^ハや^リあり。波^ハ斯^シ
 伎^キ夜^ヤ志^シ云^ハ云^ハも。愛^ハき^ハよ^シ云^ハ云^ハも。志^シ○伊^イ斯^シ岐^キ阿^ア
 波^ハ牟^ム迦^カ母^モハ。迦^カ字^ジ真^マ福^フ寺^シ本^ホ將^マ及^シ遇^ウ狄^チも^ハあり。如^カ此^ク詔^シ牙^ヤ
 係^ハよ。若^シ得^レ追^ヒ及^ヒば^ハ加^カや^リあり。危^キみ^ハ思^ハを^ハせ^ハる。御^ミ心^{ココロ}も^ハ也^{ナリ}
 了^レ此^ノ段^ノ書^キ紀^スよ^ハハ皇^{オホ}后^{キミ}云^ハ云^ハく。自^{ヨリ}山^ノ背^ノ迴^ル而^{シテ}向^シ倭^ノ明^ノ日^ノ天^ノ皇^ノ
 遣^シ舍^シ人^ヲ鳥^ヲ山^ヲ令^シ還^シ皇^ノ后^ヲ乃^{シテ}歌^フ之^ヲ曰^ク云^ハく皇^ノ后^ノ不^レ還^ル猶^モ行^ク之^ヲ
 至^リ山^ノ背^ノ河^ノ而^{シテ}云^ハく。也^{ナリ}山^ノ代^ノ川^ノの御^ミ哥^カの前^ノよ^シ記^スれ^ハし^ハめ^{ナリ}。

かく、此の趣は、鳥山を遣る時の前後、此記と異なるが如
 一、此記の趣は、既山代川を上り賜ひて、倭子幸せし
 よしを、聞かして遣はし
 二、さるに、聞ゆるなり。

又續遣丸邇臣口乎而歌曰美

母呂能曾能多迦紀那流意富

韋古賀波良意富韋古賀波良

邇阿流岐毛牟加布許許呂袁

陀^ダ邇^ニ迦^カ阿^ア比^ヒ淤^オ母^モ波^ハ受^ズ阿^ア良^ラ牟^ム。

又^ニ歌^マ曰^タ都^ツ藝^ギ泥^ネ布^フ夜^ヤ麻^マ志^シ呂^ロ賣^メ。

能^ノ許^コ又^ク波^ハ母^モ知^チ宇^ウ知^チ斯^シ淤^オ富^ホ泥^ネ。

泥^ネ士^ジ漏^ロ能^ノ斯^シ漏^ロ多^タ陀^バ牟^ム岐^キ麻^マ迦^カ。

受^ズ祁^ケ婆^バ許^コ曾^ソ斯^シ良^ラ受^ズ登^ト母^モ伊^イ波^ハ。

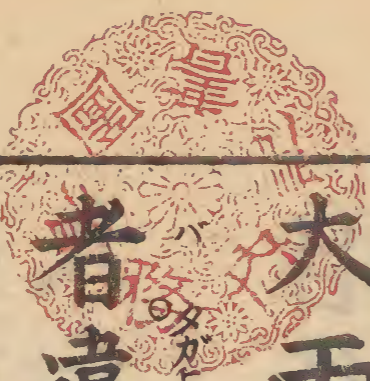
米^メ故^カ是^レ口^コ子^チ臣^コ白^ノ此^カ御^ミ歌^カ之^ノ時^ト。

大^ア雨^{メイ}爾^{タク}不^{フリ}避^キ其^コ雨^ニ參^ソ伏^ノ前^ア殿^メ戶^ヲ。

者^バ違^カ出^ヒ後^テ戶^リ參^ツ伏^ド後^ニ殿^マ戶^フ者^セ違^バ。

出^マ前^ヘ戶^ツ爾^ド匍^ニ匍^イ進^デ赴^タ跪^マ于^ヒ庭^シ中^マ。

時^ト水^キ潦^ニ至^ハ腰^ツ其^ミ臣^コ服^ニ著^ツ紅^キ紐^ケ青^{タル}。



キタリケレバ。ニハタヅミアカヒモニフレテアラミナアケニナリ

摺衣故水潦拂紅紐青皆變紅

又。コ、ニクチコノオミノイモクチヒメオホギサキニ

色爾口子臣之妹口日賣仕奉

ツカヘツレリカレコノクチヒメウタヒケラクヤ

太后故是口日賣歌曰夜麻志

コノツ、キノミヤニモノ

呂能都都紀能美夜邇母能麻

ヲス。アガセノキミハミタ

袁須阿賀勢能岐美波那美多

グマレモ。コ、ニオホギサキノユエヲトヒタマフ

具麻志母爾太后問其所由之

トキニアガセクチコノオミナリトマラシキ

時答白僕之兄口子臣也。

又續ハ。かの鳥山が返言をも待賜ひび引續きて遣し

如くも毛聞ゆれども御哥の趣を考ふる鳥山が

返言を聞食てのうす此事なり。書紀より鳥山を遣し

て。猶行乞之也あめて。次の此。○丸迹臣ハ上又出傳廿二

御使ハ。や。後のくやなり。○丸迹臣ハ上又出傳廿二

六。○口子。少。今ハ真福寺本延佳本又依於次くなるも

あり。○美母呂能ハ御室之りて三輪山のりなり。其
由上卷よ御諸山也。所る延ふ云るが如し。傳十二の山
也云ハてども。美母呂能のみ云る例も彼延ふ引る哥
比如し。○曾能多迦紀那流ハ其高城在あり。多迦紀也
ハ山を云。其由遠飛鳥宮段太子の御哥よ阿志比紀能
也。ある下ふ云るを考合せて知。傳九の。○意富
韋古賀波良ハ大猪子之腹なり。舊印本又一本なり。ハ
寺本延佳本よ有。依り。無く猪子ハ。猪なり。猪
ても可けれ。有。方調。勝り。猪子ハ。猪なり。猪
の子を云。ハ非。父馬を駒。鹿を鹿兒。也。も云。也。同例
り。此事上卷天真鹿兒弓の延。豕ハ。即猪。あると。并ノコ
傳十三の二十葉よ云り。豕ハ。即猪。あると。并ノコ

也訓も此故也。豕ハ猪之子ハ非。○意富韋古賀ハ上
又同じ。かく重ねて歌ハ古の常と。○波良迹阿流
ハ腹よ有るなり。初より此まで五句ハ次句の肝を詔
ハ多し。見あり。肝ハ人よも何り。ある物なり。猪を
る。こ也。ある故なり。人の腹内なり。人見る。こ也。あきま
れ。あり。此ら。を以て。も。古。比。哥。ハ。何。事。も。み。な。実。よ。れ
る。こ也。文。知。修。し。依。て。契。沖。ガ。美。母。呂。を。葛。上。郡。の。室。也
し。許。く。呂。を。孝。昭。天。皇。の。都。掖。上。池。心。宮。の。さ。也。し。意
富。韋。古。賀。波。良。を。室。よ。ある。原。の。名。なる。修。し。也。云。る。皆
非。あり。若。其。意。なり。也。お。か。ぬ。ら。が。原。よ。ある。高。城。也。と
そ。云。修。し。れ。高。城。なる。原。也。ハ。い。か。で。う。云。修。し。又。心。を
地。名。の。意。よ。修。し。給。也。修。し。て。ハ。高。城。なる。也。云。る。也。
穂。さ。り。又。大。和。志。よ。葛。上。郡。池。心。宮。一。名。大。韋。古。原。今
曰。蓬。原。也。云。る。ハ。い。み。し。き。み。ぎ。り。言。なり。こ。れ。ら。長。な
あ。か。ぬ。こ。が。は。ら。也。云。が。あ。地。名。の。○岐。毛。牟。加。布。ハ
如。く。聞。ゆ。る。か。る。誤。也。る。もの。なる。也。

肝キモ向ムカフして心の枕詞あり万葉二十九丁キモ肝向心乎痛九
一丁キモ肝向心摧サシテ而シテなりシたり加クはレ多ク由ユハマ然シテ腹
中ナカありシはレゆるシ五臟六腑の類を上代ミハレて皆
伎毛キモ也ト云フしなり各別キ六腑の名あるハ後ノ後ノからかその五
はななり今も鳥獸ツなぞの腹内ハあるとバレ後ノ後ノを伎毛
也トしタり又肝キモも膽タをも同シく伎毛キモ也ト訓ムも古ノ名ノ
遺ズきタりゆレて腹中ハ多クの伎毛キモ比ヒ相對カひて集ル存在て
凝コウくシ云フ意ヲ許コハレ呂ロヤハ連ヅくナり疑コウを許コロヤ也ト
云ハバハ滋シ能ネ基キ呂ロ鳴ネハハ自オ凝コ許コハレ呂ロ許コ呂ロよテ凝コウく
なり海菜ウ比ヒ心コ太トも凝コ海ウ藻モ和ニ名ノ凝コる意ノ名書紀神代
卷ノ上ノ田タ心コ姫ヒメ万葉廿一丁キモ妹イ之ガ心コを以イ母モ加カ去ク里リ也

ありシなりシ也ト以テて曉サトるシ又万葉上ノ岩根イハネこノ志シ也
多クありシ也ト凝コウくシきタり也ト疑コウ敷シ疑コウ敷シ木キ敷シなり也書キとシ
云フ又同集ト多クむシ肝キモの心コ也ト然レも然レも然レも同意
もして群シりテ伎毛キモの凝コウくシ也ト云フなり也ト冠辞考ノ説ト
已物也云言古ノ也トなり也ト對シるニ又キもシ也トむシ也ト群
契沖シが心肝コ也トハレ心コ也ト對シるニ肝コ也ト云フ也ト云フ
也トらシ許クハレ呂ロ上ノ也ト然レも然レも然レも意ヲ識シふニ疑コウふ
也トあリ許クハレ呂ロ表ヒ陀ダ迹ヒ也ト諸シ本ノ皆シ呂ロ字シ也ト宜シ今モ也ト其
子シ也ト心コ得テ也ト加シらシ又キもシ也ト私シ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト
持本シ也ト迦カ賀カ也ト心コ也ト不レ敷シ也ト陀ダ迹ヒハレ辞ジあり也ト肝キモ向ムカフ
也ト心コ得テ也ト加シらシ又キもシ也ト私シ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト
也ト心コ得テ也ト加シらシ又キもシ也ト私シ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト又キもシ也ト
哥カノ意ヲハレ物ヲ識シ思フ心コなり也ト御ミ阿ア比ヒ波ハ母モ波ハ受ス阿ア良ラ牟ム

は此句九言なり也中ニ淤ヤ阿ヤある故ニ七言の
 調子ニハ然ラズ夫者きてあはれハ多ク多クも云ハ
 知シ以テ不相思持存ナリ如此ヨミ賜テハ太后御
 身ハ還坐矣也もせめて御心バカクだも相思ハ賜ハ
 侍ヨクヤナルも御心も又朕を相思ハ賜ハぬもヤヤ
 先ノ御使鳥山ガ返言の如レなきも就テ恨み賜テ
 然ル侍シそハ先ニ鳥山を遣じられ也還坐さるは夫
 如レなきは又其御答言のおもむきの甚次希なく
 ぞありけり又ハ朕ハかく深く思ハル此朕心を
 だも相思ハ賜ハぬもヤヤ詔おもはる侍シ○都藝
 泥布ハ上ヨ出○夜麻志呂賣能ハ山代女之なり万葉
 二倭女ヤマトメ四河内女カワチメ七シあやある類なり初瀬女ハツセメあやあ

桑○許久波母知ハ木コクハモチ鑿持ノチあり師ハ木鑿ノチヤ云ハあ
 必古を用ひて許を用ひて然らば記中小又子の假字ハ
 毛持木モチキ也和名抄ニ兼名苑云鑿和名久波説文云鑿
 大鋤也和名同上也あり鉄カネを込カネげカネて木のかげあり
 あり鑿ノチも今もあるものなり契沖ハ和名抄ニ枚漢語
 るを引テ此ノチは侍ノチりヤ云ハ枚字ハ木ニ从ノチれ
 古須岐ハ木ノチ鑿ノチなり然らばハ枚ノチも木ノチばかりなり
 波ノチハ別ノチあり此の許久波ノチを枚ノチウノチ云ハあり
 字知斯チ淤ホ富ホ泥ホハ打ウチ大根ノチあり打ウチ人ノチ木ノチ鑿ノチを以
 テ地ノチを打ウチ發ヲて掘ヲると云和名抄ハ尔雅集注云菴根
 正白而可食之和名於保称俗用大根二字兼名苑云菜

葎本草云蘆葎孟洗食經云蘆葎今按皆菑之通称也○

泥士漏能ハ根白之なり菑の根は白きを云此下又如

云言を加テ心得修シ万葉十四二十丁可波加美能祢自路多可

我夜○斯漏多陀牟岐ハ白腕あり上卷沼河北賣の哥

もも多久豆怒能斯路伎多陀牟伎あり大根の白き

が如くなる白き腕云ふなり契沖が即白き手と似

似と云ふしるれ其までの意へあり○麻迦受祁婆

許曾ハ不纏げらバこそなるなり祁良婆の良を省きて祁

婆云ハ古言の例ありよかゞをよかバ其ハ先万

葉三三十丁小尚不如来十八九丁見礼度安可須介利な

や不來云云ることや多し又祁理を祁良也も活用

しとる符也同五十五丁奈利尔家良受夜六十一丁又

來受屋もや是もなる多しはれぞ不纏りもを活用し

て不纏ららぞや詔するなり契沖祁婆を心得かぬし

纏為者こそ然らぞ不纏者こそなるなり世々通せん不

あり是ハ八田皇女を召し後任せ奉りて試み給ハ

む時后の手枕を離賜ハ多時こそその御哥意なるは

よ辨牙知らばよく聞えらるるなり一句の意

ハ今までよ大后の御手を枕て寝らるるやの無くハ

こそなり○斯良受登母伊波米ハ不知也も将言なり

契沖云知らずやハ俗人の云事を聞入まじや思ふ

時さるるや我ハ知らぬや云其意あるはしめしや云るが
如し大后の鳥山と云はれなき御答を賜するよしあり
人の物言かけしるし不知^{ヒトミタタ}○一首の意ハ今まで^{ミシ}汝
云ハ^{ヒトミタタ}答するなり○^{ヒトミタタ}○一首の意ハ今まで^{ミシ}汝
此手を枕て寝し事の無く人こそ然^{シカ}然^{シカ}れなく不知^{ヒトミタタ}や
を詔ハ先既^{トシゴロメ}年来夫婦のむねびをあししる中なれ
どしやひいしり恨ましるふしありやも今はら然^カ
ハあはれおし^カた物をや大后を恨み賜するなりとて此
御哥書紀より此^コより在らざるを他時^{ニトキ}に在り其^{ソレ}就
て論^ヒあり下ふ云^シ○白^{ニシス}此御歌ハ大后の御許^{ニモト}に参^{ニキ}
入て申^ヒありありは^シ此^コニ御哥必しも大后に贈賜^ニふ

ゆゑん非るるは^{カク}如此詠賜するや告申せるなる
修^シ○時ハ表理志母^{シモ}や訓^シ○大雨ハ阿米伊多^{アメイト}ク
布理伎^キや訓^シ書紀^ニ大雨甚雨なやをヒガマや訓^シ
なりそん此^コ記^シハ氷雨や書^シなり氷雨^ニ万葉八^{マンヤハチ}五^イ
事^{コト}ハ倭建命^{ヤマトノミコト}段傳^{ノト}廿八^{ニヤチハチ}の廿五^{ニヤチイヒ}葉^{エフ}又^{マタ}委^{オモ}云^{ハク}なり
丁^{チヨウ}二^ニ零^{シロ}雪^{ユキ}者^ノ甚^シ莫^ク零^シ十^{ジュウ}丁^{チヨウ}二^ニ春^{ハル}雨^{アメ}者^ノ甚^シ勿^ク零^シなり○
不^フ避^ビハ佐^サ氣^ケ受^ウや訓^シ○前^{マエ}殿^ノ戸^ノ後^ノ殿^ノ戸^ノハ麻^マ幣^ヒ都^ツ登^ト
能^ノ度^ド斯^シ理^リ都^ツ登^ト能^ド度^ドや訓^シ前^{マエ}後^ノハ一^{イツ}殿^ノの^ノ前^{マエ}方^ノ後^ノ方^ノ
あり前^{マエ}殿^ノ後^ノ殿^ノの^ノい^イ下^シ文^ノも大^{オホ}后^ノ所^ノ坐^マ殿^ノ戸^ノやも其^{ソノ}殿^ノ
戸^ノ之^ノ國^ノ上^ノやあり書^シ紀^ニ崇^{スガ}神^ノ卷^ノ大^{オホ}御^ミ哥^ノも^モ淋^シ和^ワ能^ノ等^ト能^ト
渡^ド鳥^ト万^{マン}葉^ヤ十^{ジュウ}八^{ハチ}三^{サン}十^{ジュウ}六^{ロク}丁^{チヨウ}六^{ロク}奴^ヌ之^ノ能^ノ等^ト能^ト度^ド尔^ニ○後^{ノチ}戸^ノ前^ノ戸^ノハ

斯理都斗麻幣都斗也訓彦し水垣官段哥よ斯理都斗
用伊由岐多賀比麻幣都斗用伊由岐多賀比也何れ多
賀比也云くやも此也同じして同戸を上よハ殿戸也
いひ下る人も戸也云るハ文あり○違ハ大后の彼
方此方也行違ひて口子臣よ遇へし也志賜あなり上
御哥の志也父也もいほ免の不知
也云言此の状を以て心得彦し○匍匐ハ波比也訓
彦し上よ出傳十七の○進赴ハ赴字ハ退の誤なる彦
し赴あてハ此のさるよ叶ひがし師ハスハミ書紀
垂仁卷よ俯仰喉咽進退而血泣景行卷よ朝夕進退行
待還日可く神武卷景行卷なやよ棲皇をもレバ二二
テ也訓了續紀九詔よ進母不知退母不知夜日畏恐麻利所念彼
これらに依て進退也して斯士麻比豆也訓終下の清濁
ハ詳なれぬ姑甚く畏み惑する状あり万葉三十三
小鶉成伊波比毛等保理恐等仕奉而中卷倭建命段よ
匍匐廻其地之那豆岐田哭くもこれ状よ近し○庭中
万葉廿二丁小波奈加能○跪一時ハ時字舊印本又
福寺本延佳本よ依り比邪麻豆伎表流登伎尔也訓
彦し比邪麻豆久ハ地よ膝を突て屈まり居るよて敬
師ハ此の跪をウズレバ也訓も此のハ叶ひ
は朝倉官段大御哥よある言も此のハ叶ひ
異意居てふ言を添て讀むれ言足ハぬ後も書

テ也訓了續紀九詔よ進母不知退母不知夜日畏恐麻利所念彼
これらに依て進退也して斯士麻比豆也訓終下の清濁
ハ詳なれぬ姑甚く畏み惑する状あり万葉三十三
小鶉成伊波比毛等保理恐等仕奉而中卷倭建命段よ
匍匐廻其地之那豆岐田哭くもこれ状よ近し○庭中
万葉廿二丁小波奈加能○跪一時ハ時字舊印本又
福寺本延佳本よ依り比邪麻豆伎表流登伎尔也訓
彦し比邪麻豆久ハ地よ膝を突て屈まり居るよて敬
師ハ此の跪をウズレバ也訓も此のハ叶ひ
は朝倉官段大御哥よある言も此のハ叶ひ
異意居てふ言を添て讀むれ言足ハぬ後も書

純允恭卷_二中臣鳥賊津使主云_レ伏_二于弟姫庭中_一言_二天
皇命以召之云_レ經_二七日伏於庭中_一云_レ此_レ也似_二之_一○
水潦ハ和名抄_二唐韻云_レ潦雨水也_一和名尔_二八太豆美_一
所_レ雨降時_二地上_一よ_二と_一あ_レて流_二る_一水なり_二師の儀_一
あり_レ也云_レれ_二と_一ん_二あ_レれ_一ゆ_二万葉二_一九_二丁_一庭多泉流_二
やあ_レゆ_レあ_レいか_レゆ_レ多_二九_一丁_二庭多泉流_一
涙_二十九_一廿_二八_一丁_二あ_レも_レ尔_二波多豆美流_一七_二六_一丁_二甚_二多_一毛
不零雨故庭立水大莫逝人之應知○至腰至ハ都祁理
也訓_二流_一書紀神代卷_二潮漬足時云_レ至腰時云_レ○
著_二紅紐青摺衣_一摺_二字他_一古書_二也_一摺_二也_一作_レり_二今考_一も_二
摺_二字ハ_一須流義見_二え_レ又_一ハ_二摺_一を_二誤_一る_二也_一摺_二ハ_一摹
也_二注_一せ_レ又_一ハ_二摺_一を_二誤_一る_二也_一摺_二ハ_一摹

別_二又_一此_二字_一を用_二ひ_一あ_レる_二也_一然_レる_二例_一紅紐ハ師の阿迦
毛_二多_一く_二あ_レれ_一を_二今_一ハ_二本_一の_二ま_一り_二と_一書_二於_一紅紐ハ師の阿迦
比_二母_一也_二訓_一れ_二と_一る_二也_一依_二流_一し_二古_一ハ_二凡_一て_二摺_一衣_二を_一好_二美_一き_二物_一
あ_レる_二也_一男女共_二小_一時_二也_一なく_二服_一と_二る_一也_二万葉の哥_一も_二数
志_二所_一也_二よ_一あ_レる_二趣_一も_二也_一を_二以_一て_二知_一流_二し_一朝倉宮段_二一_一
時_二天皇登_一幸_二葛城山_一之時_二百官人等悉給_一著_二紅紐_一之_二音_一摺
衣服_二同_一段_二也_一丹摺袖_二書紀_一天武_二卷_一高市皇子云_レ賜_二蓐_一
摺_二御衣_一三具_二云_レ續_二紀_一十五_二云_レ鼓_二琴_一任_二其_一彈_二歌_一五位
已_二上_一賜_二摺_一衣_二云_レ廿_二九_一云_レ道_二鏡_一與_二五_一位_二已_一上_二摺_一衣_二人_一
一_二領_一云_レ廿_二也_一葛井船津文武生藏六氏男女二百三十
人_二供_一奉_二歌_一垣_二其_一服_二並_一著_二青_一摺_二細_一布_二衣_一垂_二紅_一長_二紐_一云_レ類_二聚_一

國史の延暦十二年十一月遊獵于交野右大臣從二位
藤原朝臣繼繩獻_ニ措衣_ヲ給_フ五位已上及命婦米女等_ニ
同十八年正月辛酉御大極殿宴群臣并勅海客奏樂賜_ニ
蕃客以上_ニ綦措衣_ヲ云々万葉七_ノ月草尔衣曾深流君之_ニ
為_ニ綠色衣_ヲ將措跡念_テ而_{シテ}不時_ニ斑衣服_ヲ欲_シ香衣服_ヲ針原_ノ
時_ニ二不有_ニ鞞_{トモ}十_ニ思子之衣_ヲ將措_ル保比與_ニ嶋之_ニ榛原_ノ
秋_ノ不立友_ナ分措衣_ノ哥_ノ數_ナ多_シ以_テ榛措_ハ榛_ノ木_ヲ
綦_ノ書_ルも同じ_シ今俗_ニは_ハん_ノ木_ヲ也_ト云_フ少_ク万葉_ノ榛_ノ
又_ハ綦_ノ也_ハある_も皆_ハ是_ナなり_ト然_レふ_レと_ハ萩_ノ也_トして_ハ波岐_ノ也_ト訓_ハ
非_ナなり_ト萩_ノを_ハ彼_ノ集_ルも_ハ芽_ノ子_ノ也_ト書_ク少_クなり_ト此_ノ事_ハ別_ニ
委_ク云_フ信_シして_ハ措衣_ハ榛_ノ限_ラず_ト何_レも_ハ用_ヒて_ハ
色_クも_ハ措_カく_テ後_ニ至_ルても_ハ措_カり_テ信_ス夫_ノ措_ナ也_ト見_エ
し_ナり

し_テ神事_ノも_ハ古_ノの_ニ隨_テを_ハ傳_フて_ハ後_ニまで_ハ大嘗_ノ新嘗_ノ及_テ賀_ス
茂_ク臨時_ニ祭_ナる_もハ_ハ定_メり_テ措衣_ヲを用_ヒら_ル青措_也
ハ_ハ山藍_ヲを_ハ以_テ措_ルも_ハ云_フ此_レも_ハ上_ノ代_ノハ_ハ山藍_ノ限_ラ
を_ハ云_フし_テ其_ノ方_ノ葉_ノも_ハ九_ノ十九_ノ紅_ノ赤_ノ裳_ノ數十_ノ引_テ山藍_ヲ用_フ
ハ_ハ詳_カなり_トス_レル_キス_キテ_ハ措_ル衣服_而也_ト弘_ノ仁_ノ内_ノ裡_ノ式_ニ十一月_ニ新嘗_ノ會_ノ式_ニ今_ノ
日_ニ小齋_ヲ不_レ論_テ高_下皆_ハ着_ス青措_袍負_テ觀_ル儀式_ニ大嘗_ノ會_ノ儀_ニ云_フ
青措_袍各_ハ一_ノ領_ト其_ノ表_ニ以_テ山藍_ヲ其_ノ裏_ニ淺_ク綠_ト前_ノ祭_ノ一日_ニ同日_ニ薄_ク暮_ル
參_シ議_シ已_上就_テ宮_内省_令賜_テ齋_服神_祇官_伯已_下彈_琴已_上
十三_人云_ク各_ハ榛_藍措_綿袍_一領_白袴_一腰_史生_已下_神
服_已上_百卅_七人_云ク_各青_措布_衫一_領云_ク次_賜小_齋

親王已下及群官并内侍已下女孺已上青摺衫各一領。
五位已上不謂男女淺深相副紅深垂
紐自餘結紐祭及宴會同著加日蔭縵延喜大嘗祭式
云く小齋親王以下皆青摺袍五位以上紅垂紐淺深相副
自餘皆結紐内親王及命婦以下女孺以上亦青摺袍紅
垂紐五位以上亦自餘結紐親王以下女孺以上皆日蔭
誤或綴殿式新嘗祭小齋諸司青摺布衫三百十二領
細布一百疋領佐渡布一百緋紐料四丈贊布六端一丈
八十二領並別二丈一尺緋紐料四丈贊布六端一丈
二尺別長二尺二寸廣六寸山藍五十四圍半摸飯料米二斗四升
八勺生絲四約紅花大十五斤五兩云く中官小齋人青
摺細布衫四十九領云く緋紐料云くハ衫一領別緋紐

一條別也云く也なり摸ハ摺る修る丈の摸なり青摺
摸也云く也小右記に見えり飯ハ糊此料あり修
糊をまじり用ひ造酒式踐祚大嘗祭供奉料云く青
て摺るなり修造酒式踐祚大嘗祭供奉料云く青
摺調布衫四十領四領著赤紐小齋人四人料三云く其
小齋大齋人充青摺調布衫造酒司の小四時祭式
鎮魂祭官人以下裝束料伯以下史以上七人官主一人
已上綦摺袍云く各賜青摺袍一領袴一腰西宮記新嘗
會條小忌王卿以下著青摺布袍并日影縵淺履等云
云大忌王卿以下如恒云く豊明日小忌王卿著青摺布
袍赤紐日影縵等云く五節舞姫節會夜羅青摺長
袂云く左右著赤紐日蔭縵臨時祭條舞人裝束

なむも世くを經るまに漸く其さよ變り来ぬるこ
也右の書也も次く見ゆる此赤紐を以て知ゆし
○拂上卷よ天詔琴拂樹而地動鳴也也此ハ水潦
紅紐の沾れを云也○昔皆云く此音字諸本
無し今ハ真福寺本ハ依まら青摺の色を云なり此字
ハ足らぬ ○變紅色ハ師の阿氣尔那理奴也訓ま
ゆ宜し佐加竹を多加也云也同格なり變ハ加府理奴
也也訓ゆし凡て色の變上卷よ肥河變血而流也也
也○口日賣書紀ハ國依媛也也○仕奉ハも也上
也宮仕志てあり起るなり故此時も御前よ侍るな
也○夜麻志呂能ハ山代之あり○都く紀能美夜迹ハ

筒木官となり筒木上より出此延ハ奴理能美が家なれ
也見也今大后の坐く故也官也ハ云るなり上殿
然也○母能麻衰須ハ物申にあり万葉十六三丁石
麻呂尔吾物申云く古今集旋頭也打渡れ彼方人よ物
申次吾云く契沖ガ此哥也もを引て次よ事を打出る
ハ叶ふ也此の哥ハ叶ハ交此ハ吟子此の哥ハ次
臣ガ物申次よしをよするなり此の哥ハ次
句す續けて心得ゆし○阿賀勢能岐美波ハ吾兄君者
也此句書紀ハ和餓齊鳥涿例麼也也此記の如
くよてハいかなり若ハ傳す誤りるるや書紀の
方ハ宜し故彼紀よ依て解をし吾兄の降雨よ所治水

潦^{カシ}所^{ヘタリ}漬^ルて庭中^ニ恐^{カレ}畏^ユまり居^ルる艱^{ワビシ}苦^シきは^レ可^ク見^レれ
ば^ハあ^リ。○那^ナ美^ミ多^タ具^グ麻^マ志^シ母^モハ^ハ涙^{ナミ}ど^シも^シも^シなり。凡^レて^ハ涙
常^ニよ^リハ^ハ濁^ルて^ハ喉^ノ也^モ。此^ノも^ハ書^ノ紀^ノも^ハ万^ノ葉^ノ五^ノも^ハ多^ク字^ヲ
を^レ用^ヒて^ハ本^ノ清^ノ音^ノも^ハ但^シし^テ万^ノ葉^ノ世^ノハ^ハ二^ノ也^ニ。太^ノ字^ヲを
用^ヒて^ハ太^ノ契^ノ冲^ノ云^ハ涙^ノど^シも^シも^シ葦^ノの^ノ角^ノど^シも^シも^シなり。云^ハ類^ハハ^ハ萌^キ
ハ^ハ濁^ル音^{ナリ}なり。契^ノ冲^ノ云^ハ涙^ノど^シも^シも^シも^シ葦^ノの^ノ角^ノど^シも^シも^シなり。云^ハ類^ハハ^ハ萌^キ
次^ノ意^{ナリ}なり。云^ハ也^モ。同^ジ。具^ノ牟^ノを^レ具^ノ麻^ノ志^ノ云^ハ類^ハハ^ハ直^ス
よ^リ指^{サシ}著^ツて^ハ云^ハ也^モ。其^ノ状^ヲを^レ緩^ユり^ヨ云^ハ辞^{ナリ}なり。此^ノハ
吾^ノ兄^ノの^ノ体^ヲを^レ見^ルる^ハ悲^カ哀^シと^シて^ハ涙^ノど^シも^シも^シも^シお^ハが^ハゆ^ハぬ^ハ
云^ハなり。上^ノなる^ハ句^ヲ此^ノ記^ノの^ノ如^クと^シて^ハ此^ノ句^ヲ口^ノ子^ノ臣^ノの^ノ涙^ノ
趣^モの^ノか^ハなる^ハなり。大^ノ后^ノ向^キ。万^ノ葉^ノ三^ノ。與^レ妹^ノ来^レ之^ノ敏^シ
其^ノ所^ノ時^ノ也^モある^ハなり。叶^ヒか^ハなり。万^ノ葉^ノ三^ノ。與^レ妹^ノ来^レ之^ノ敏^シ
馬^ノ能^ク埒^ヲ乎^カ還^ル尤^ニ尔^ノ独^リ而^シ見^ル者^ノ鴻^ノ具^ノ未^ク之^ノ毛^モ後^ニ撰^ル集^ル古^ノの

野中^ノの^ノ清^ノ水^ヲ見^ルる^ハか^ハら^レん^ハさ^シむ^ハもの^ノハ^ハ涙^{ナリ}なり。ハ^ハ
○向^キ其^ノ所^ノ由^リハ^ハ見^ルる^ハ涙^ノど^シも^シも^シも^シなり。ハ^ハ如何^ナな
依^リ由^リて^ハ然^ラバ^ハり^ハ哀^シき^ハも^ハ問^ヒ賜^ハふ^ハなり。○僕^ノ之^ノ兄^ノ
云^ハく。此^ノ上^ノ。彼^ノ者^ノ也^モ云^ハ言^ヲを^レ添^フて^ハ心^ヲ得^ルる^ハ書^ノ紀^ノ云^ハ冬^ノ十
月^ノ甲^ノ申^ノ朔^ノ遣^ハ的^ノ臣^ヲ祖^ノ口^ノ持^ノ臣^ヲ喚^ヒ皇^ノ后^ヲ。祖^ノ口^ノ子^ノ臣^ノ爰^ニ口^ノ持^ノ
臣^ノ至^リ筒^ノ城^ノ宮^ニ雖^シ謁^ス皇^ノ后^ニ而^シ默^シ之^ノ不^レ答^ス時^ニ口^ノ持^ノ臣^ノ沾^ル雪^ノ雨^ニ以^テ
經^ル日^ヲ夜^ヲ伏^ス于^レ皇^ノ后^ノ殿^ノ前^ニ而^シ不^レ避^ス於^レ是^ニ口^ノ持^ノ臣^ノ之^ノ妹^ノ國^ノ依^レ媛^ノ
仕^ル于^レ皇^ノ后^ノ適^ニ是^ニ時^ニ侍^ル皇^ノ后^ノ之^ノ側^ニ見^ル其^ノ兄^ノ沾^ル雨^ニ而^シ流^ル涕^ス之^ノ歌^ヲ
曰^ク云^ハく。時^ニ皇^ノ后^ノ謂^ク國^ノ依^レ媛^ノ曰^ク何^ノ尔^ノ泣^ク之^ノ對^シ言^ハ今^ニ伏^ス庭^ニ請^ヒ謁^ス
者^ノ妾^ノ兄^ノ也^モ沾^ル雨^ニ不^レ避^ス猶^シ伏^ス將^シ謁^ス是^レ以^テ泣^ク悲^シ耳^ノ時^ニ皇^ノ后^ノ謂^ク之^ノ

イヒテ 曰告汝兄令速還吾遂不返焉口持臣

カクキリテアリツキハミラレヌ 則返之復奏于天皇雪字ハ零を誤

コ、ニクチコノオミマタソノイモクチヒ

於是口子臣亦其妹口比賣及

奴理能美三人議而令奏天皇

云大后幸行所以者奴理能美

之所養虫一度為匍虫一度為

殼一度為飛鳥有變三色之奇

虫者行此虫而入坐耳更無異

心如此奏時天皇詔然者吾思

奇異故欲見行自大宮上幸行

入坐奴理能美之家時其奴理

能美已所養之三種虫獻於大

后爾天皇御立其大后所坐殿

戸歌曰都藝泥布夜麻斯呂賣

能許久波母知宇知斯意富泥

佐和佐和爾那賀伊幣勢許曾

宇知和多須夜賀波延那須岐

伊理麻韋久禮此天皇與大后

所歌之六歌者志都歌之返歌

也。

三人の美多理志豆也訓修し万葉子一人為而二人為
而なが、多く云り。○令奏の人を難波宮子遣えてなり。

か飛鳥の方ぞ勝^チてたがゆる。所養虫^{カフムシ}の依^ヨるは三種^{サンシュ}虫
 也。次^{ツギ}の方穩^{ウチ}あると似^ニれれども飛^{トビ}ぬ虫^{ムシ}の飛^{トビ}虫^{ムシ}は變^カら
 むハさバかり奇^キしや次^{ツギ}なるを此^{コノ}事^{コト}も非^ヒ常^{ジョウ}な
 蟻^{アリ}なやも忽^ト羽^ハの出来^デて飛^{トビ}往^{ユク}るやあり其^{ソノ} ○三色^{サンシク}ハ
 外^{ソト}も毛^{モウ}はる類^{ルイ}形^{カタチ}ぬあるるやなるをや ○三色^{サンシク}ハ
 師^シの美^ミ久^ク佐^サや訓^{クニ}ま^マすると從^{ツキ}や修^{シウ}し書^{シヤク}紀^キなやも然^{シカ}
 訓^{クニ}少^シ次^{ツギ}も三種^{サンシュ}虫^{ムシ}也^{ナリ}何^{ナニ}も同^{ドウ}じ。新^{シン}年^{ネン}祭^{サイ}祝^{シク}詞^ジなやも種^{シュ}
 必^{カナラ}伊^イ呂^ロ中^{チュウ}や訓^{クニ}修^{シウ}れれやんて三種^{サンシュ}四^シ種^{シュ}なやも三^{サン}伊^イ呂^ロ四^シ
 伊^イ呂^ロ種^{シュ}くを伊^イ呂^ロくく^クなや云^{イハ}ハ色^{シキ}字^ジも就^{ツキ}て出来^デる
 言^{コト}や聞^{クニ}かて古^コ言^{ゴン}やん思^{オモ}はる古^コハ白^{ハク}黒^クな ○奇^キ虫^{チュウ}こ
 やの色^{シキ}もあつてん伊^イ呂^ロやんははざりけ多^タ ○奇^キ虫^{チュウ}こ
 ハ一度^{イツド}ハ鳥^{トリ}も變^カる物^{モノ}なれど一方^{イツフウ}も就^{ツキ}て虫^{ムシ}ハ云^{イハ}
 難^{ガタ}かる修^{シウ}きを上^{ウヘ}るを所^{カフムシ}養^{ヤウ}虫^{チュウ}やいひ次^{ツギ}もも三種^{サンシュ}虫^{ムシ}也^{ナリ}
 云^{イハ}るハ此^{コノ}物^{モノ}初^{ハツメ}ハ全^{モト}虫^{ムシ}もて在^アしつ後^{ノチ}も卵^{マダニ}も鳥^{トリ}もを

變^カる物^{モノ}やハなれるある修^{シウ}し故^{ユヘ}其^{ソノ}初^{ハツメ}も就^{ツキ}て虫^{ムシ}ハ云^{イハ}
 卵^{マダニ}も修^{シウ}し。若^シ初^{ハツメ}も全^{モト}ら虫^{ムシ}もて何^{ナニ}も多^タまハ一度^{イツド}ハ虫^{ムシ}も
 也一度^{イツド}ハ虫^{ムシ}も變^カるハ既^{スデ}も變^カりそ後^{ノチ}の狀^{カタチ}を以^モて
 云^{イハ}る卵^{マダニ}も此^{コノ}次^{ツギ}も鳥^{トリ}もなや又^{マタ}立^タかす少^シて虫^{ムシ}もなや
 て常^{ジョウ}も如此^{コノ}次^{ツギ}も三^{サン}種^{シュ}も變^カるなり故^{ユヘ}一度^{イツド}ハ云^{イハ}る
 一度^{イツド}ハ虫^{ムシ}もなや時^{トキ}も何^{ナニ}も卵^{マダニ}も時^{トキ}も何^{ナニ}も鳥^{トリ}も
 也なる時^{トキ}も何^{ナニ}も云^{イハ}る意^イなりされや其^{ソノ}初^{ハツメ}ハ全^{モト}ら虫^{ムシ}も
 也何^{ナニ}も何^{ナニ}も思^{オモ}ひしハ所^{カフムシ}養^{ヤウ}虫^{チュウ}も奇^キ虫^{チュウ}も何^{ナニ}もを以^モて
 知^チ修^{シウ}きなり又^{マタ}思^{オモ}ひしハ三^{サン}種^{シュ}も變^カる物^{モノ}を虫^{ムシ}也^{ナリ}と云^{イハ}
 るハ卵^{マダニ}も鳥^{トリ}も變^カる中^{ナカ}も虫^{ムシ}もて在^アる間^{マヒ}の久^{キウ}き
 故^{ユヘ}もやや思^{オモ}ひしや然^{シカ}も非^ヒじ又^{マタ}漢^{カン}國^{クニ}もてハ鳥^{トリ}
 獸^{ベツ}虫^{チュウ}魚^{イサ}の屬^{リョク}の總^{ソウ}名^{メイ}を虫^{ムシ}也^{ナリ}と云^{イハ}る何^{ナニ}も其^{ソノ}意^イなり
 思^{オモ}ひし皇^{クワン}國^{クニ}もてハ ○看^{カン}行^{ギョウ}ハ美^ミ曾^{ソウ}那^ナ波^ハ志^シ尔^ニや訓^{クニ}修^{シウ}し
 看^{カン}字^ジ諸^{シュ}本^{ホン}も者^{モノ}も何^{ナニ}もハ誤^ゴなり。延^{エン}佳^{ケイ}本^{ホン}も行^{ギョウ}下^カ見^{ケン}字^ジ
 しか今^{イマ}例^{レイ}も依^ヨて改^{カイ}先^{セン}也^{ナリ}。又^{マタ}者^{モノ}ハ本^{ホン}のま^マくもて其^{ソノ}下^カも
 ら也^{ナリ}。今^{イマ}例^{レイ}も依^ヨて改^{カイ}先^{セン}也^{ナリ}。看^{カン}字^ジの脱^{ダツ}ももある修^{シウ}し

其例ハ中卷倭建命段ヨ看行其神入坐其野云々朝倉
宮段ヨ天皇看行其浮蓋之兼云々此看字をも諸本
福寺本延佳本なぞあり看行の事ハ彼倭建命段傳世
のハ看字ありなぞあり。而字ハ讀法カクカハ
五十ノ委云々虫下なる而字ハ讀法カクカハ
三兼テ也モ訓法ハれやなやろし隨云々而也
云々云々而字あれや讀法ハクカハ同也。○耳字ハ
許曾阿礼也訓法ハクカハ首卷ヨ云云如し。○無異心
ハ氣斯伎美許く呂波麻佐受也訓法ハクカハ大后の御
なる故也心を御心無也此云おきて外ヨ別御意趣ハお
之不坐也訓法ハクカハ此云おきて外ヨ別御意趣ハお
はし坐さ文也なり。上卷ヨ云々參上耳無異心也
也同じ。○然者吾ハ欲見行可係也。思辭異字ハクカハ
てハ看字ハクカハ

○欲見行ハ見行舊印本延佳本なぞハ行見也あり
今ハ真福寺本又一本又一本なぞハ依り
美迹由加那也訓法ハクカハ那ハ牟也云々同じ古言なり。○
大官ハ難波京の皇大官あり。○上幸行上ハ山代川
を大御舟よめ泝坐を云々書紀ヨ十一月甲寅朔庚申
天皇浮江幸山背時桑枝沿水而流天皇視桑枝歌之曰
鬼怒嗟破赴以破能臂謎餓飲朋呂伽瑪枳許嗟怒于羅
愚破能紀豫辱麻志枳筒破能區葦愚葦豫呂明臂喻玖
伽茂于羅愚破能紀ぬハ詔ハぬハ古哥ヨハハ云々
をき云々云々給り多し云々云々桑ハ蠶養ニ用ふれ也婦人の
大事又云々云々ありそり云々物あり故又大后の常ニ

おろそかに詔ハぬ愛き桑也詔するなり。よろちひ
倚るもて、布ひを其ささりなり。桑ハ大后のさばりし
志み賜ふ物もて、川よりちりかひ流まなぐ人、次あじき
物なるも、隈くも倚り、流まゆくも、此物を見
賜ふも、大后の御事を所念えん。○所養之之、
御哥あり、契沖が解なぐハ甚く誤り。記中かゝる所
字諸本無し、今ハ真福寺本に依り。○三種虫ハ此上
又變字の落するも、師の云
きよらもて猶思ふ也。此虫ハ本より唯一箇あり、
まじく数多をありけり。されど其時、虫もてあるも
卵もてあるも、鳥もてあるも、交りてありけむ。其狀を
以て、三種也云、法きささり。然らバ、今現又鳥もて
云、まじらふも、似しれども、既よ上りも、
虫や、しれども、何てふら、ありむ。○献大后ハ、天皇
を、大后の御許に入坐し、免て、御中らひを直し奉らむ
免の謀事なり。○御立ハ、万葉二九丁、御立為之嶋乎
見時五三丁、美多、志世、利斯、伊志、乎多、礼、美、吉、十九
三十丁、船騰、毛、尔、御、立、座、而。○都、藝、泥、布、云、く、四、句、上、又
六丁、出、し、少、此、ハ、佐、和、く、く、の、序、あり、此、度、山、代、又、幸
行せり、道のちやもて、看行せり、事をよ、賜するなり。
故上なる、泥、士、漏、能、志、漏、多、陀、牟、岐、て、小、御、哥、也、書、紀、よ
ハ、此、の、御、哥、此、次、又、接、けて、奉、ら、れ、て、此、同、時、の、御、な、る
を、此、記、よ、ハ、別、よ、上、小、出、せ、る、ハ、傳、の、紛、乱、なる、法、し、て、凡

○古事記傳三十六
五十二

かゝるるこや古ハ見る物聞物よけけこそよ免出と
由也なきよその事を引よせよむらやんをさく
なかりきかの根白の御哥も必此度よ可し賜○佐和
予めやあぢしりれハ書紀ぞ正しうけふ
佐和尔ハ字真福寺本ハ上よめれ續きの意ハ清くよ
て清潔なるを云大根ハ色も味も甚清潔なる物され
ハなり書紀私記よも蘿菔之根嚙時尤和也加奈利や
云り契沖此私記の説をおやけりなしや云て木鉄よ
て畠を打音よせよのや云るハのみしき非な
る若然らど大根打さよよなやろそ云修りれ打し
大根やハのやけり云む又鉄以て土を打音ハのうば
のやけりあらるやとくや和や夜や通ひて佐和くハ
云ハかりの音あるや和や夜や通ひて佐和くハ
佐夜佐夜や同じけて其を喧擾の意よ取てよよせ給
するなり喧擾しきけりを佐和くくや云る例ハ上卷

口大之尾翼鱸佐和くく迹控依騰而やめり彼處の
傳考合次修し十四の六 大后の嫉妬をて喧擾しく詔
ふよしありけて清くや喧擾やを通ハして續げし
例ハ明宮段國栖人の哥よ加良賀志多紀能佐夜くく
これ上よめれけりきハけりく意哥の意
ハ清くなりな本傳ハ三の四葉考ふ修しなやめるが
如し又万葉四十五の珠衣乃狭藍尤謂沈十四二十
安利伎奴乃佐惠くく之豆美あり衣ハ鮮衣此狭藍尤
謂佐惠くくなやも佐夜くくや同くて夜行の音や和
行の音や通ひ又止よめれ續きハ清潔ふて鮮衣の清
きなり又さやえく意よけりしるもあるなり源
氏物語初音卷よ黒さかいぬめれさあくさく張る

一かき子云く注よ。けわくをく。鳴意あり。
也。見え。司馬相如子。鹿賦。草蔡漢書音義。草蔡衣声。
さ。わく相通。其を喧擾。又通。し。取。き。る。も。同。き。
を思ふ。清し。師云。清くなり。先の御哥も。此。
て清らなる。大后ゆゑ。其白腕を忘ぬ。故。又。遠く。
来。勢。あり。清く。なり。ハ。言。の。云。さ。り。又。ハ。文。若。其。
意。あり。清く。なり。ハ。言。の。云。さ。り。又。ハ。文。若。其。
故。又。清り。云。で。ハ。聞。を。ぬ。り。清く。なり。○那賀伊幣勢許
曾ハ。汝之言。せ。る。なり。汝ハ。大后。字。指。次。許。曾ハ。辞。不
結。賜。可。め。汝。が。言。せ。り。を。了。その。意。なる。を。婆。を。省。く
ハ。古。哥。に。常。あり。伊。波。勢。許。曾。や。ある。清。き。よ。伊。幣。や。あ
る。活。用。の。延。ハ。い。や。精。志。き。物。あり。さ。れ。は。か。
ハ。云。さ。り。し。る。や。なり。故。思。ふ。よ。波。勢。を。城。む。れ。を。幣。な
り。次。よ。勢。ハ。河。れ。や。も。あり。其。勢。よ。引。く。音。便。よ。幣。や
ハ。詔。可。る。よ。や。さ。る。例。も。ある。く。や。あり。吾。大。玉。を。万。葉

ハ。和。期。大。王。や。ある。毛。次。の。游。れ。音。よ。引。き。て。賀。を。期。也。
ハ。云。る。なり。さて。此。御。句。を。契。冲。が。い。す。れ。る。も。あり。勢。
ハ。礼。ハ。同。韻。よ。て。通。可。り。や。云。る。ハ。意。ハ。違。ハ。ざ。れ。や。も。
精。し。か。く。矣。古。言。よ。ハ。言。を。伊。波。須。聞。を。伎。加。須。な。り。云。
例。あり。て。此。の。勢。ハ。其。須。の。活。用。な。れ。を。し。す。き。て。そ。や。
云。ハ。同。じ。う。う。矣。繼。躰。紀。の。哥。よ。倭。我。弥。細。磨。や。ある。
を。見。る。ハ。や。云。や。ハ。云。さ。り。異。あり。是。も。古。言。よ。見。を。美。
志。見。る。を。美。須。や。云。其。活。用。よ。て。細。や。云。る。よ。て。意。ハ。見。
る。ハ。あり。准。乎。て。知。清。し。さ。り。又。師。ハ。此。御。○宇。知。和。多。
句。を。汝。家。夫。を。せ。ら。れ。る。ハ。さ。り。し。御。○宇。知。和。多。
須。ハ。打。渡。次。よ。て。向。を。見。渡。り。る。や。なり。万。葉。四。五。丁。不。
打。渡。竹。田。之。原。尔。古。今。集。又。打。渡。次。彼。方。人。よ。な。り。皆。然。
也。此。外。中。昔。ま。で。も。皆。見。渡。次。を。云。や。云。り。後。撰。集。よ。打。
渡。し。長。き。心。ハ。橋。の。蜘蛛。手。よ。思。ふ。く。や。ハ。絶。せ。し。是。
ハ。橋。の。縁。よ。云。て。即。其。橋。を。見。渡。り。意。の。云。な。し。あり。橋。
の。長。き。を。見。渡。し。る。よ。あり。拾。遺。集。よ。舟。岡。の。野。中。
よ。て。る。母。郎。花。渡。さ。ぬ。人。ハ。あ。ら。じ。や。を。思。ふ。是。も。舟。
比。縁。よ。云。て。見。渡。さ。ぬ。人。ハ。あ。ら。じ。や。云。る。なり。又。古。哥

よ世中ハ夢の渡の浮橋の打渡し物に思ふ
此二三の句ハ五葉の哥よある吉野の夢に云む
云此もてそよ渡せる浮橋なるを打渡し云む
先云ふありはて哥の意ハ世中の憂きまふなるが
あして物思少や云ふなり物思のある時ハ物を
打渡し見渡ししてながる其を打渡し物云ふ
又俊成卿哥よ都出て伏見字にゆる明方ハ先打渡
吹櫃川の橋を先見渡しなり夫木集ハ堀川のせ
きのぬふひれ打渡しありて人よ戀ひあかまこ
ハ人をよよよ見渡しありて逢かきあしな
めかくの如くありて此詞中昔までハ人皆其意をよ
く知まうや見ゆるを近世やありて知まう人なく皆
かごころろえして遠きや長きやを云ふ
右よ引る哥やもの中よ遠く長きやを云ふハ
ぬが所を以てその誤るるやを知し加の
後撰集あるを長きハ橋よ就る言よるをあれ
賀波延那須夜を書紀よ那や作るハ耶字を写誤る
なり書紀よ那やあるよ依て契沖かきめて此記の夜
を傳写の誤り同韻相通ふうなり云師も書紀よ

依て夜を奈の誤やせられし者中くの非あり
上の打渡しを必長きとや思ひなれしるから
書紀の写誤ハ心からなり此句ハ春日祭
記よハ奈を假字よ用ひし例ハ此句ハ春日祭
祝詞よ云く王等卿等乎母平久天皇我朝廷尔伊加志
夜久波敷能如久仕奉利佐加敷志米賜登云く平野祭
祝詞よも親王等王等臣等百官人等乎母夜守日守尔
守賜互天皇朝廷尔伊夜高尔伊夜廣尔伊賀志夜具波
江如久立栄之米令仕奉給登云くやある夜具波敷能
如久や同言なり其ハ師の祝詞考よ伊加志ハ紀よ嚴
又重やかき諸の祝詞よ茂や書て盛よ足ひを勢嚴な
海あり夜具波敷ハ弥木栄なり樹のいかり子よ生

茂栄るを云木の茂花生さる處森林又波延也云也此
栄あり今世遠江人の木草比孫枝の生茂るまことば
元也云毛是なり此言ハ古言の存しを用ひて譬を
るれり也云さるが如し木を賀也も具也毛通也
云なる也但し夜賀又夜具也云ハ跡木もハ非
ての意ハ右の説の如し後世の言よりやがら子也云
毛跡之上よりあらして此夜賀波延の説ありなる也
し那須ハ如くなり彼祝詞也もハはて此も如此詔
可るハ率来坐る諸司の御供奉人等の多く盛ん茂き
とを譬を賜り少て其趣も彼祝詞也も全同也
彼祝詞なるも王臣百官の茂く栄ゆる譬なり抑此詞
此御哥を始也とて他も云る古言のありしを祝詞

もハ取さるるさして是も即此時見渡し賜ふ楮を以て
譬賜りたり故上より打渡次也ハあり此御句書
御字ハ耶の誤なるを曉さる人なくとて契沖カ
長延也して繩なやを長く延さる如く長き道を行幸
せる意なり也云る其外も長延也して云る説也あ
るもの○岐伊理麻韋久礼ハ来入参来也なり麻韋を
の下畧也云ハ言の本末も麻韋也云る言本なれ中巻白
入なり諸ハ参出もて麻韋也云る言本なれ中巻白
構原宮段哥も意佐加能意富牟盧夜尔比登佐波尔岐
伊理表理万葉四十四下不近道之間乎煩参来而又十五
九持将参来廿十又安礼波麻為許牟○一首の意ハ
の嫉妬もて喧擾く言賜りバこそ朕ハ幾多の御供奉

人を引率て所狹く煩志きたるありしを來終水也詔
トヒキキトコロセ
 あり。弥木榮は譬ふして御供奉人の多きを詔す
ハ行幸せる事の容易かゞ煩しき由なり
 ○所歌ハ師の美宇多波斯多流也訓まする宜し用語
ハタラキコト
 もも御也云々御寢坐御立なやの如し○六歌ハ牟
ウタ宇多也訓をしハツノミウタウヤ訓をさか如くなれ也
云々云々六首也云々なや。凡て哥幾首ハ幾宇多也云
なりなり。四哥也三哥也。上なる山代川を川上あり也御哥
コトよめ此可て七首の内より口比賣の哥一を除きて六首
なりなり。其中あり正しく大后也よるかハ給ふも非
るも交まらぬ其也此大后也の御中の事因き
御哥也をなれど一書紀云明日兼輿詣于筒城宮喚
みしてかく云ふなり

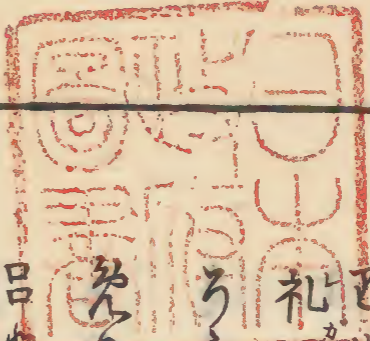
皇后皇后不參見時天皇歌曰云々亦歌曰云々時皇后
レテニラサアガホキニミエ
レニニカレヌメラミコトカハリニシ
 不奉見乃車駕還宮天皇於是恨皇后大忿而猶有戀思
コトニオホキサキカカシテテラウケレホコヒレヌヒカニヒキ
 三十五年夏六月皇后幣之媛命薨於筒城宮三十七年
 冬十一月甲戌朔乙酉葬皇后那羅山上墓幣之媛命云
ツウツウノカヒウタ
 ○志都歌之返歌此御段の末も如此云るあり彼也
ニクク
 一人返歌を諸本共よ歌返也あるも延佳本よ此
一人一人返歌也ありかくて此も諸本よ一人返歌也あり也
毛毛眞福寺本も一人歌返也あり故思ふも歌返也ある方
也也正しかる若然らば彼也延佳本よ返歌也作る
ハ例のさかしく改免するなる

此心^ハ諸本^ニ返歌^クあるも、^カ下上^ノ誤り^ナなるは、^シ歌返^ナるハ、^ウ宇多^ヒ比
加幣^カ志^シ訓^ニ修^スるや、^カ依^ルるは、^カ返歌^ク云^フぞ、^リ理^カ穩^カ
聞^ク心^ヲ又^ヒ夷^ノ振^リ之上^ニ歌^ク云^フ例^ニ格^ノるも、^カ叶^レれを^シ今^ハ姑
く^モ此^モ彼^レも^ハ返歌^クある^ニ依^ルる^ニ志^都歌^ク云^フハ、^カ朝
倉^ノ宮^ノ段^ノるも^ハ二^ノ處^ニ見^エる^ニ也、^ハ何^レも^ハ志^都歌^ク作^レて^ハ都^ノ字
常^ニハ^ハ濁^キや^ハ古^ノ書^ニハ、^ハ都^ノの^ハ假^ノ字^ヲを^シ書^テ、^ハ清^ノ音^ナなり、^ハ倭^ノ丈^ノの^ハ然^レえ
清^ノ音^ナなり^ハ静^ノの^ハ然^レも、^ハ古^ノハ^ハ清^シなる^ニ也、^ハ神^ノ樂^ノ歌^ノ古
本^ニ云^フく、^ハ次^ニ薦^ニ枕^ニ静^ニ歌^ニ、^ハ拍^子十^ニ本^ニ、^ハ尻^上拍^子十^ニ四^ニ、^ハ又^ハ裏^以
前^ノ宮^ノ人^ノ木^綿志^天前^張此^三首^各静^歌二^返尋^琴拍^子打^尻拳^二返^云く、^ハ見^エ、^ハ韓^神歌^ノ、^ハ静^韓神^早韓^神云^クこ
ゆ^{あり}、^ハ早^ニ對^テて、^ハ静^云を^以て^見る^ハ、^ハ志^都歌^ハ、^ハ徐^カ

よ歌^ハ小^由の^ハ名^ハある^ニ、^ハ返^歌ハ、^ハ古^今集^大哥^所、^ハ神^ノ樂^ノ中^ノ、^ハ返^レし^物の^ハ哥^云て、^ハ青^柳を^片糸^ニ搓^テ云^ク
の^ハ哥^を載^レり、^ハ此^ハ、^ハ神^ノ樂^ノの^ハ青^柳云^フ哥^{あり}、^ハ古^今集
此^ハ哥^云ハ、^ハ此^ハ、^ハ一^首の^ハ題^{なり}、^ハ袖^中抄^ニ次^{なる}、^ハ真^金吹^ハ、^ハ注^{あり}
の^ハ哥^をも^ハ連^ぬて^ハ、^ハ誤^り、^ハ真^金吹^ハ、^ハ注^{あり}
なり、^ハ別^六帖^琴、^ハ吾^妻琴^春の^ハ調^を借^り、^ハ返^レし^物云^フ
ハ^思ハ^ざり^り、^ハ此^ハ、^ハ伊^勢集^ニ、^ハ故^中務^宮の^ハ琴^を借^り
帖^ノの^ハ袖^中抄^返し^物の^ハ條^ハ右^ノの^ハ哥^云を^引て、^ハ神^ノ樂^ノ
譜^云、^ハ朝^倉吹^返、^ハ催^馬樂^拍子^云、^ハみ^さら^らや^木の^ハ丸^殿
よ^云く、^ハ此^ハ、^ハ哥^為御^前返^歌是^延喜^世年^勅定^也、^ハ神^ノ樂^ノ遊^仕
仕^る時^ハ、^ハ神^ノ音^振唱^又云^フ、^ハ星^已了^搔返^絲竹^云て、^ハ可^仕朝

倉^ヲ支^チ催^マ堪能^シ之^ノ哥^ヲ人^ニ私^ニ云^フ朝倉^ヲくくもそをあたむ所か
 可^ク吹^ケ云^フ或^ハ吹^キ返^スや^ハ吹^キ返^スや^ハ吹^キ返^ス或^ハ掃^キ返^ス絲^竹云^フ或^ハ
 催^マ馬^ノ樂^ヲ拍^子云^フ云^フ此^ノ可^ク吹^キ返^スの^ノ苗^也も琴^も別^のよも
 俗^ニ改^メむ^リ催^マ馬^ノ樂^ヲ拍^子云^フ云^フ知^ルぬ^ニ云^フ袖^中
 抄^江次^第石^{清水}臨^時祭^儀舞^人出^畢陪^從反^哥退^出
 也^見心^て抄^二反^哥大^比礼^返也^云源^氏物^語若^菜
 上^卷唱^哥の^人御^階召^テ勝^美の^声の^かり
 出^シて^返の^音も^ある^夜の^更行^より^物の^調也^な
 形^をしく^かり^めて^青柳^遊ひ^給ふ^を云^フ注^はか^り
 可^ク吹^キ返^スの^律も^あら^なめ^なり^云何^ん體^源抄^に

え返^の声^と青^柳を^くく^めて^云ハ^律の^声を^返す^声也
 云^フ云^フこれ^ハ凡^て律^声を^返す^声云^フハ^非支^也又^云
 朝倉^が可^ク吹^キ返^ス云^フハ^朝倉^の哥^を催^マ馬^ノ樂^ヲ拍^子く^くも
 字^云神^樂ハ^一越^調なる^を催^マ馬^ノ樂^ヲ拍^子と^琴を^調ぶ^る
 あり^云云^フ是^も右^の袖^中抄^と星^己了^云右^のく^くも
 を^合せて^考る^に調^の易^をを^返す^云其^ハ物^の下
 上^と易^をを^覆へ^云裏^表と^易を^翻る^云類^をて
 調^の易^るハ^呂の^律と^翻る^{なり}其^調を^易す^く
 際^に哥^と哥^を返^す云^フ返^物云^フ是^も是^{なり}か^の青^柳
 二^かり^時と^くく^も哥^をを^以て^返す^物云^フ源
 氏^物語^に物^の志^を返^すなり^く易^めて^云云^フ



呂の律リョリツにかつめしむるさなり六帖の哥の意ハ春の
 調ハ呂リョめて律リツハ非ヒまバ返物ヘンモノハ思シハ云ク云ク借カら
 袖スリーブ中抄チュウシャウハ朝倉テウソウを御前ミゼマヘの返哥ヘンカハ思シハ云ク云ク
 時トキころシ朝倉テウソウを御前ミゼマヘの返哥ヘンカハ思シハ云ク云ク
 も調テウを易カサて此哥ココカをうクも皆ミナかはるル也見ミえスなりナリ
 其ソノ時トキ音ネ振フも拍子ハカサツも皆ミナかはるル也見ミえスなりナリ
 礼レ返ヘン空クウ云クも返ヘンし哥カハ大比ダイヒ礼レをク也ナリ
 物モノの調テウ哥音カオンも呂律リョリツを分ワケちシハ漢國カンククの定テイ
 依ヨりシてシ。但シテ皇國クウククよりシハりシ故ユに
 呂リョ云クハ彼國ヒョククの律リツ律リツ云クハ彼國ヒョククの
 呂リョなりナリ漢學カンガクの人ヒトハ此ココ也勿ム忘ル後ノチのコト也ナリ
 此ココの返哥ヘンカを其調ソノテウの易カサるル也ナリ説トクハハ如何イカバ思シハ人
 何ナニもモ云ク名ナこそ後ノチなれ上代カミヤシよりシ
 て哥音カオンも物モノの調テウなリもおのノ終ハシりシ強イカき柔ユクき
 多オホクニ也

差サシなリ人ヒトあるナリ其ソノを翻ヒラカして歌ウタハ事コトもあリ
 返哥ヘンカ名ナげテ多オホクニ也何ナニハ疑ウタガハせナ
 傳ツタへル然シカド子コもモ然シカド人ヒトもモ
 後ノチもモ然シカド子コもモ然シカド人ヒトもモ



Vertical columns of handwritten text in Chinese characters, enclosed within a rectangular border. The text is written in a cursive style and appears to be a formal document or record.

Small handwritten characters or a mark in the bottom left corner of the page.

